

II 東京都がんに関する家族調査

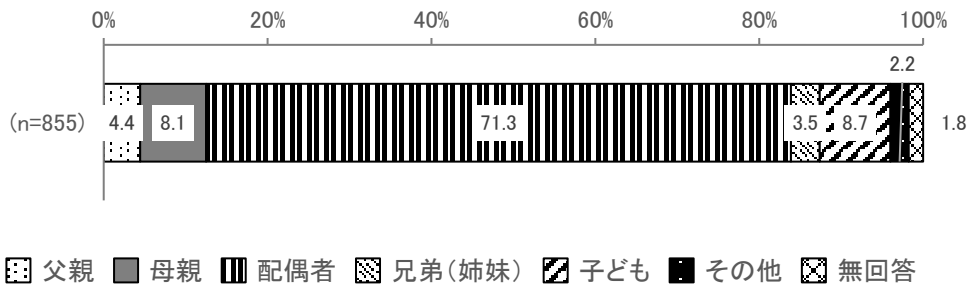
1. 回答者の状況について

1) がんに罹患した家族との関係

《問1》あなたの、がんに罹患されているご家族の方（以下「患者様」と記します。）との関係を教えてください。（○は1つ）

がんに罹患した家族との関係についてみると、「配偶者」が71.3%で最も多く、次いで「子ども」が8.7%であった。

図表 143 がんに罹患した家族との関係



2) 性別・年齢

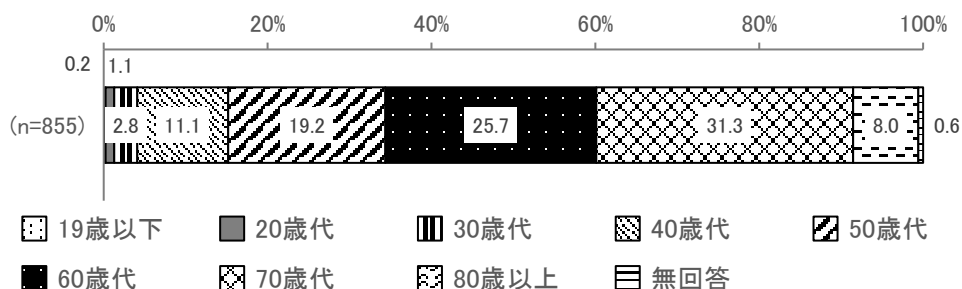
《問2》あなたの現在の年齢を教えてください。（○は1つ）

《問3》あなたの性別※を教えてください。（○は1つ）（※身体的性別）

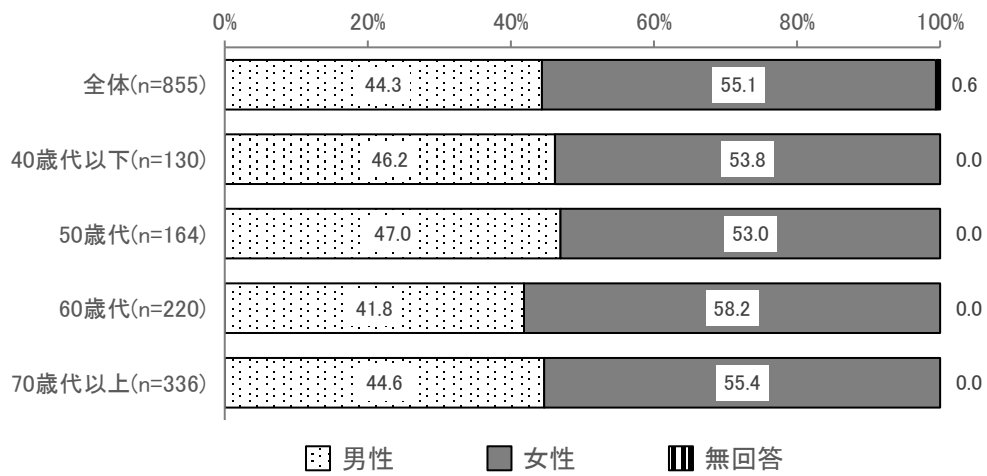
年齢階級別の構成割合を見ると、「70歳代」が31.3%で最も多く、次いで「60歳代」が25.7%、「50歳代」が19.2%であった。

性別は「女性」が55.1%と、「男性」44.3%よりも多かった。

図表 144 年齢階級別構成割合



図表 145 性別【年齢階級別】

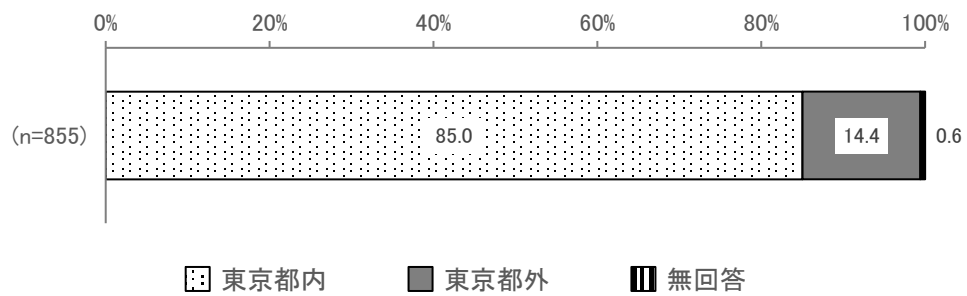


3) 居住地

《問4》あなたの現在お住まいの都道府県、市区町村はどちらですか。(○は1つ)

調査回答時点の居住地は「東京都内」が85.0%であり、「東京都外」は14.4%であった。

図表 146 回答時点の居住地

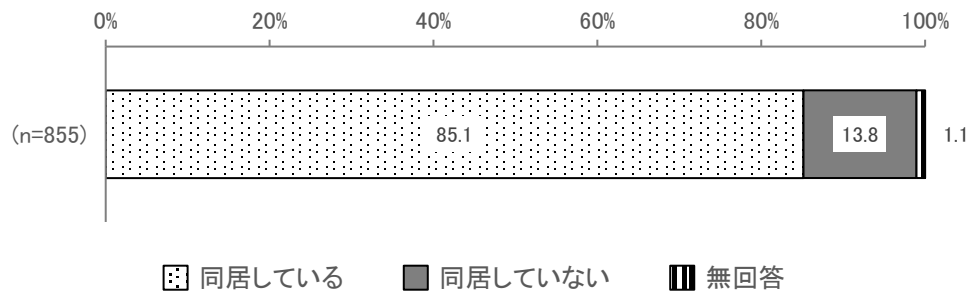


4) がんに罹患した家族との同居の有無

《問5》あなたは現在、患者様と同居されていますか。(○は1つ)

がんに罹患した家族と「同居している」と回答した者は85.1%であり、「同居していない」と回答した者は13.8%であった。

図表 147 同居者の有無



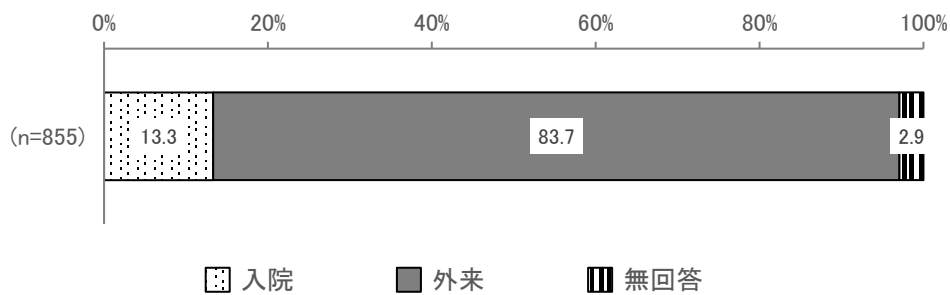
2. がんに罹患した家族(患者)の状況について

1) 調査病院での入院・外来の別

《問6》患者様は、現在、この調査票を受け取った病院（以下「本病院」と記します。）では、入院、外来のどちらで受診されていますか（○は1つ）

調査病院に「入院」で受診している者は 13.3%であり、「外来」で受診している者は 83.7%であった。

図表 148 調査病院での入院・外来の別



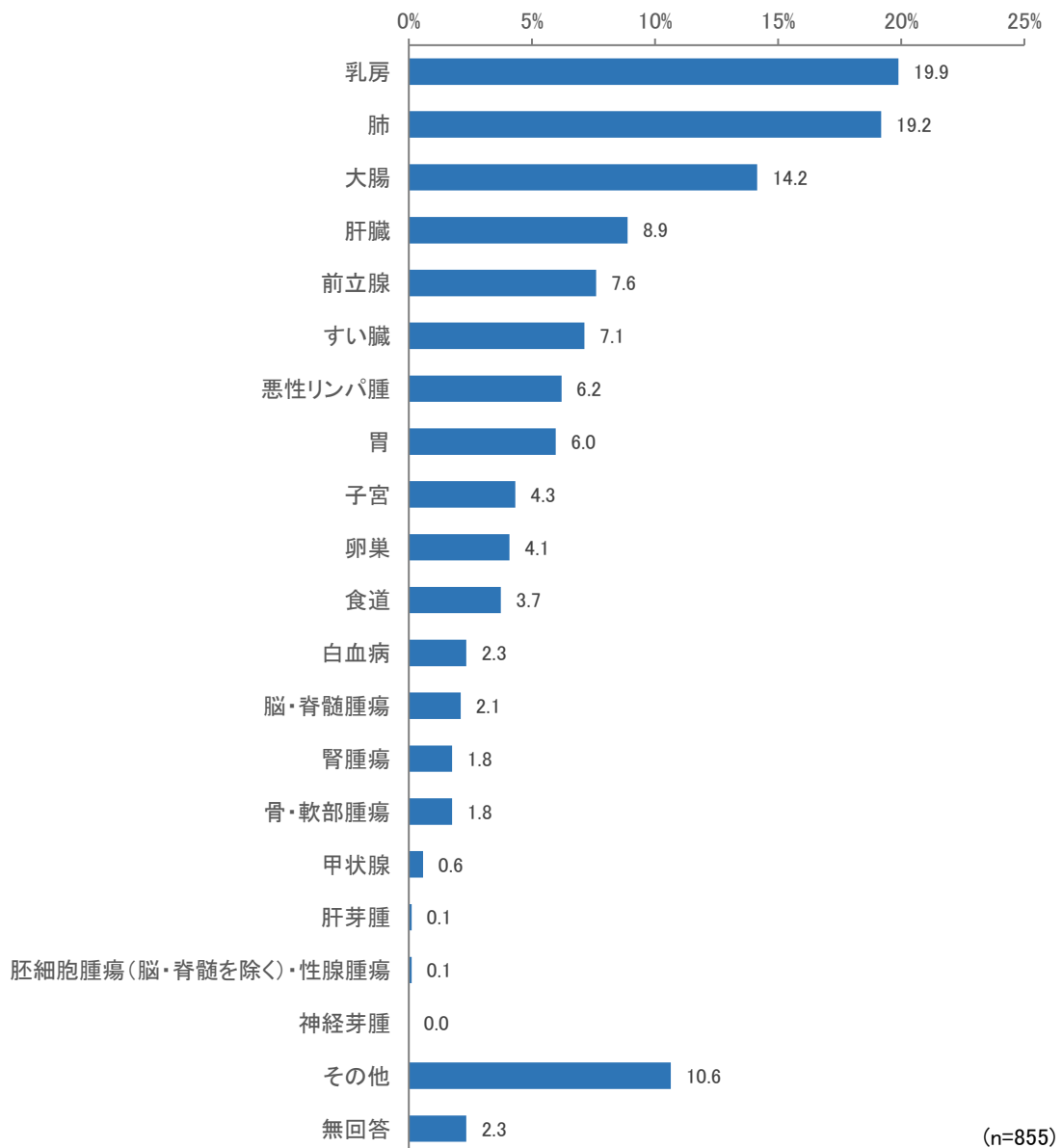
2) 調査病院で治療をしている「がん」の部位

《問7》患者様の、本病院で治療をしている「がん」の部位はどこですか。(〇はいくつでも)

調査病院で治療を始めた「がん」の部位は、「乳房」が最も多く19.9%、次いで「肺」が19.2%、「大腸」が14.2%であった。

「その他」の内訳としては、喉頭がん、咽頭がん、舌がん、皮膚がん、膀胱がん、多発性骨髄腫等が挙げられた。

図表 149 調査病院で治療をしている「がん」の部位（複数回答）

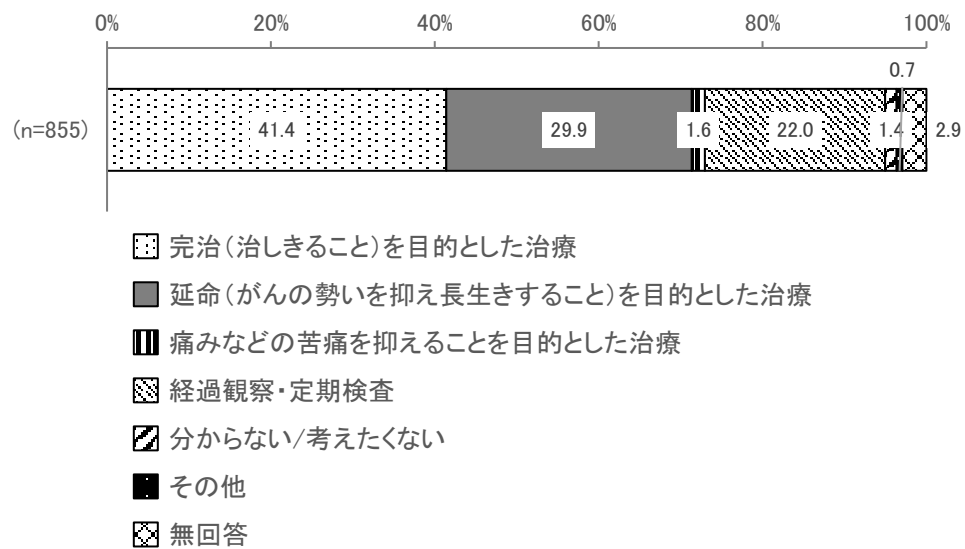


3) 現在の治療状況

《問8》患者様の、現在の治療状況について教えてください。(○は1つ)

現在の治療状況としては「完治(治しきることを目的とした治療)」が41.4%で最も多く、次いで「延命(がんの勢いを抑え長生きすることを目的とした治療)」が29.9%、「経過観察・定期検査」が22.0%であった。

図表 150 現在の治療状況



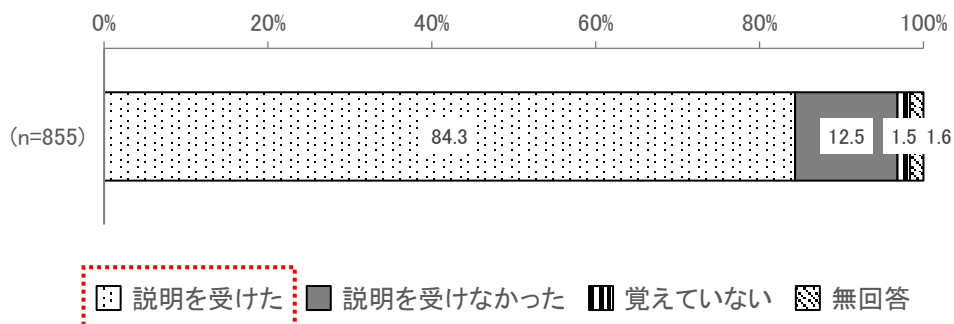
3. 調査病院での治療方針について

1) 治療内容に関する説明

《問9》患者様の、本病院での治療内容について、あなたも主治医から説明を受けましたか。(○は1つ)

治療内容について回答者自身も主治医から説明を受けたかどうか尋ねたところ、「説明を受けた」が84.3%で最も多く、「説明を受けなかった」は12.5%であった。

図表 151 治療内容に関する主治医からの説明の有無



説明を受けた 説明を受けなかった 覚えていない 無回答

図表 152 へ

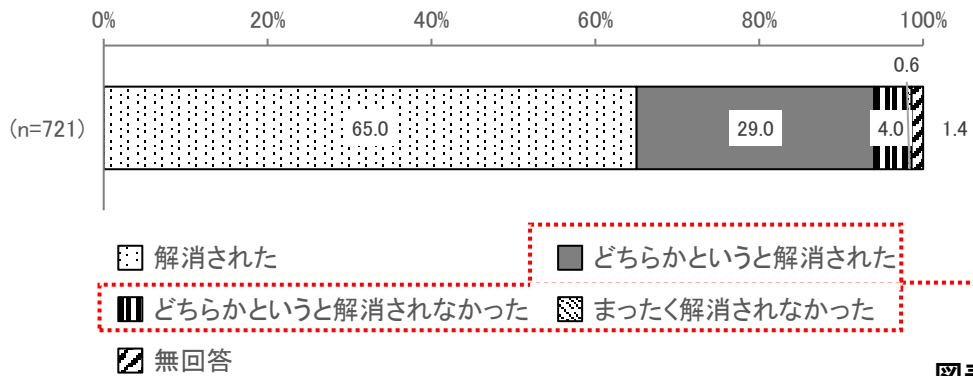
2) 主治医等からの説明により、疑問や不安は解消されたか

《問10》問9で、「1. 説明を受けた」と回答された方に伺います。

主治医等からの説明により、治療内容に対する疑問や不安は解消されましたか。(○は1つ)

治療内容について自身も主治医から「説明を受けた」と回答した721人に、治療内容を決定する際、主治医等からの説明により疑問や不安が解消されたかどうかについて尋ねたところ、「解消された」が65.0%で最も多く、「どちらかというと解消された」29.0%と、合わせて約94%の者が疑問や不安が解消されたと回答した。

図表 152 主治医等からの説明による疑問や不安の解消状況



図表 153 へ

3) 疑問や不安が解消されなかったと思った理由

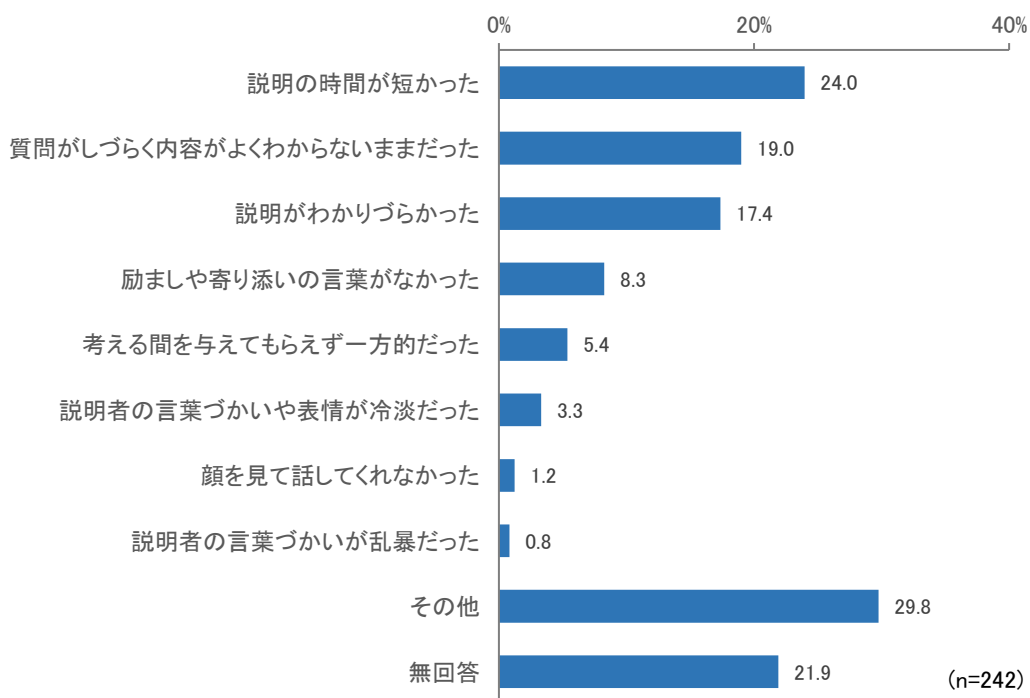
《問11》問10で「1. 解消された」以外を選ばれた方に伺います。

疑問や不安が解消されなかったと思った理由は何ですか。(〇は1つ)

治療内容を決定する際、主治医等からの説明により疑問や不安が「どちらかというと解消された」「どちらかというと解消されなかった」または「まったく解消されなかった」と回答した242人に、その理由を尋ねたところ、「説明の時間が短かった」が24.0%で最も多く、次いで「質問がしづらく内容がよくわからないままだった」が19.0%、「説明がわかりづらかった」が17.4%であった。

「その他」の内訳としては、患者調査と同様に「がんそのものへの不安がある(残る)」といったもののほか、「説明は丁寧だがこちらが理解不足」、「自分自身が冷静ではなかった」などの意見が挙げられた。

図表 153 疑問や不安が解消されなかったと思った理由（複数回答）



「その他」の具体的内容

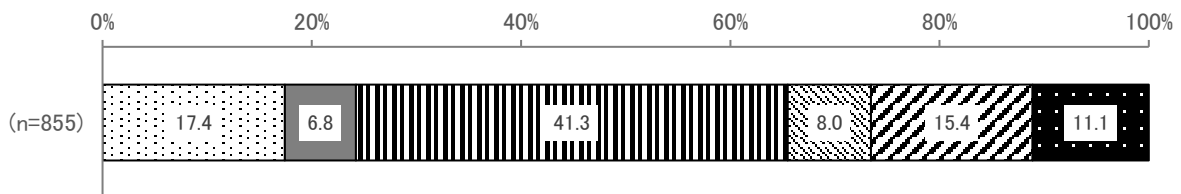
- 受け止める側が、急なことにとまどっていた
- 自分に基礎知識が不足、事前に理解する必要があると感じた
- 何を質問していいかわかっていたいなかった
- 子供に起こる事を考えると、全ての不安が解消されるわけではない 等

4) 調査病院医師からのセカンドオピニオンの取得に関する説明の有無

《問12》患者様の治療方針等に関するセカンドオピニオンについて、あなたは本病院の医師からはどのように説明されましたか。(〇は1つ)

調査病院医師からのセカンドオピニオンの取得に関する説明については、「セカンドオピニオンについては説明されなかった」が41.3%で最も多く、次いで「セカンドオピニオンを受けるとい選択肢について医師から提示があった」が17.4%であった。

図表 154 調査病院医師からのセカンドオピニオンの取得に関する説明の有無



- ☒ セカンドオピニオンを受けるとい選択肢について医師から提示があった
- セカンドオピニオンを受けるとい選択肢について、医師から提示はなかったが、尋ねたら説明された
- ▨ セカンドオピニオンについては説明されなかった
- ▩ その他
- ▧ わからない・覚えていない
- 無回答

「その他」の具体的内容

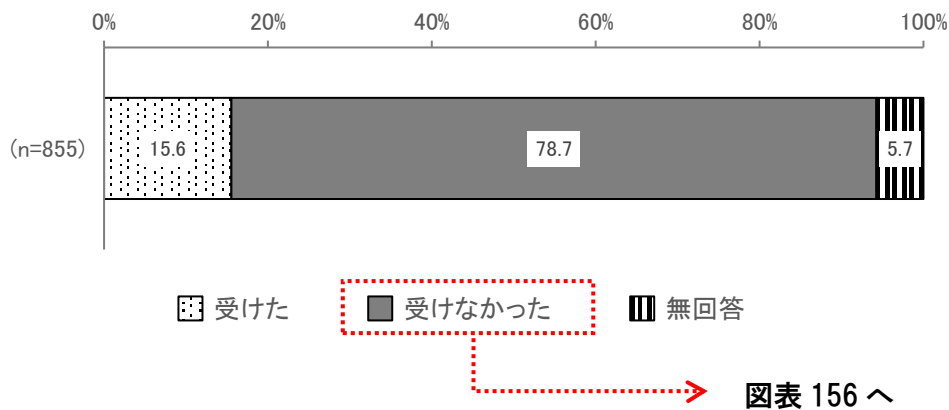
- 他病院からセカンドオピニオンでこちらの病院を選択 等

5) セカンドオピニオンの取得の有無

《問13》患者様は、セカンドオピニオンを受けましたか。(○は1つ)

がんに罹患した家族のセカンドオピニオンの取得の有無については、「受けなかった」と回答した者は78.7%であり、「受けた」と回答した者は15.6%であった。

図表 155 セカンドオピニオンの取得の有無

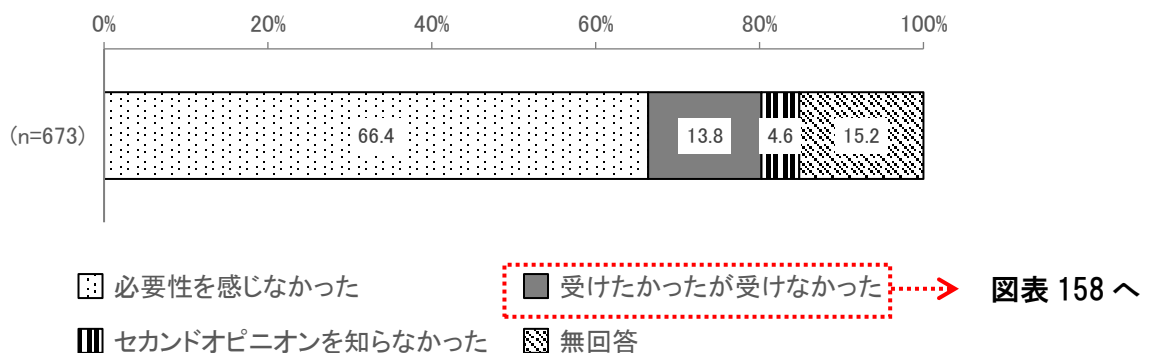


6) セカンドオピニオンを受けなかった理由

《問13》セカンドオピニオンを受けなかった理由 (○は1つ)

がんに罹患した家族がセカンドオピニオンを「受けなかった」と回答した673人に、受けなかった理由について尋ねたところ、「必要性を感じなかった」が66.4%で最も多く、次いで「受けたかったが受けなかった」が13.8%、「セカンドオピニオンを知らなかった」が4.6%であった。

図表 156 セカンドオピニオンを受けなかった理由



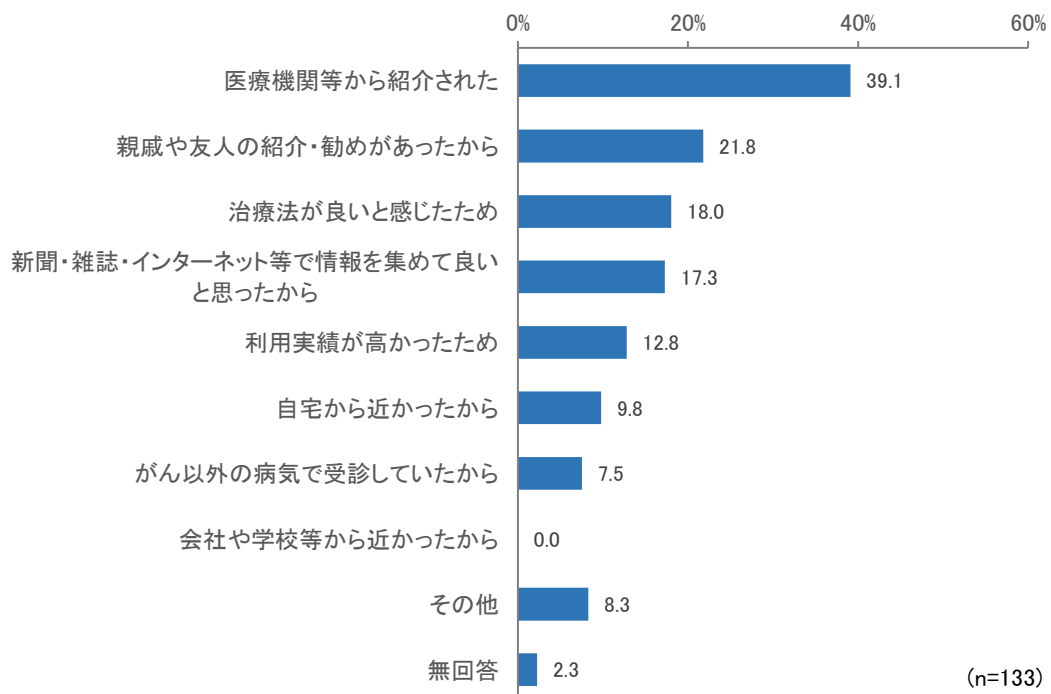
7) セカンドオピニオン先の選定方法

《問14》問13で「1. 受けた」と回答された方に伺います。

セカンドオピニオン先はどのように選定しましたか。(〇はいくつでも)

がんに罹患した家族がセカンドオピニオンを「受けた」と回答した133人に、セカンドオピニオン先の選定方法について尋ねたところ、「医療機関等から紹介された」が39.1%で最も多く、次いで「親戚や友人の紹介・勧めがあったから」が21.8%、「治療法が良いと感じたため」が18.0%であった。

図表 157 セカンドオピニオン先の選定方法（複数回答）



「その他」の具体的内容

- 生命保険会社に相談した
- 産業医からの勧め
- 前病院での治療がこれ以上できなかったため 等

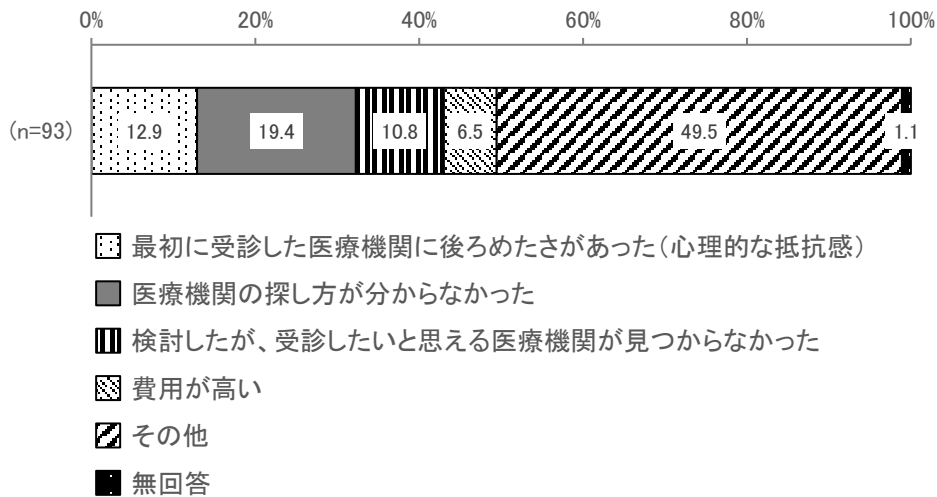
8) セカンドオピニオンを受けたかったが受けなかった理由

《問15》問13(2)で「2. 受けたかったが受けなかった」と回答された方に伺います。

セカンドオピニオンを受けなかった理由は何ですか。(○は1つ)

がんに罹患した家族がセカンドオピニオンを「受けたかったが受けなかった」と回答した93人に、セカンドオピニオンを受けなかった理由について尋ねたところ、「医療機関の探し方が分からなかった」が19.4%で最も多く、次いで「最初に受診した医療機関に後ろめたさがあった(心理的な抵抗感)」が12.9%、「検討したが、受診したいと思える医療機関が見つからなかった」が10.8%であった。

図表 158 セカンドオピニオンを受けたかったが受けなかった理由



「その他」の具体的内容

- 本人の意向に従った
- 早く治療を開始した方がよいとのことだったため 等

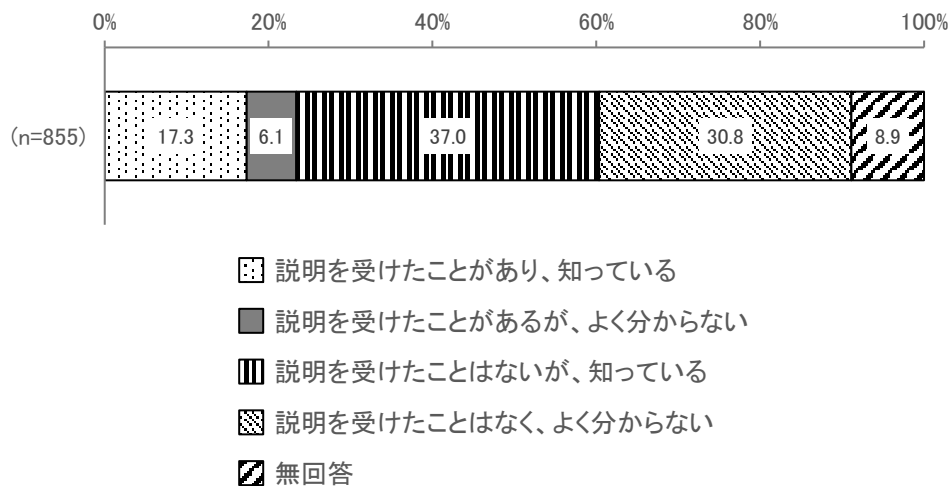
4. 緩和ケアについて

1) 緩和ケアの内容や範囲についての説明

《問16》緩和ケアの内容や範囲について説明を受けたことはありますか、知っていますか。(○は1つ)

緩和ケアの内容や範囲について説明を受けたかどうか尋ねたところ、「説明を受けたことはないが、知っている」が37.0%で最も多く、次いで、「説明を受けたことはなく、よく分からない」が30.8%であった。

図表 159 緩和ケアの内容や範囲についての説明



2) 「がんの緩和ケア」のイメージ

《問17》「がんの緩和ケア」と聞いて、どのようなイメージをお持ちですか。

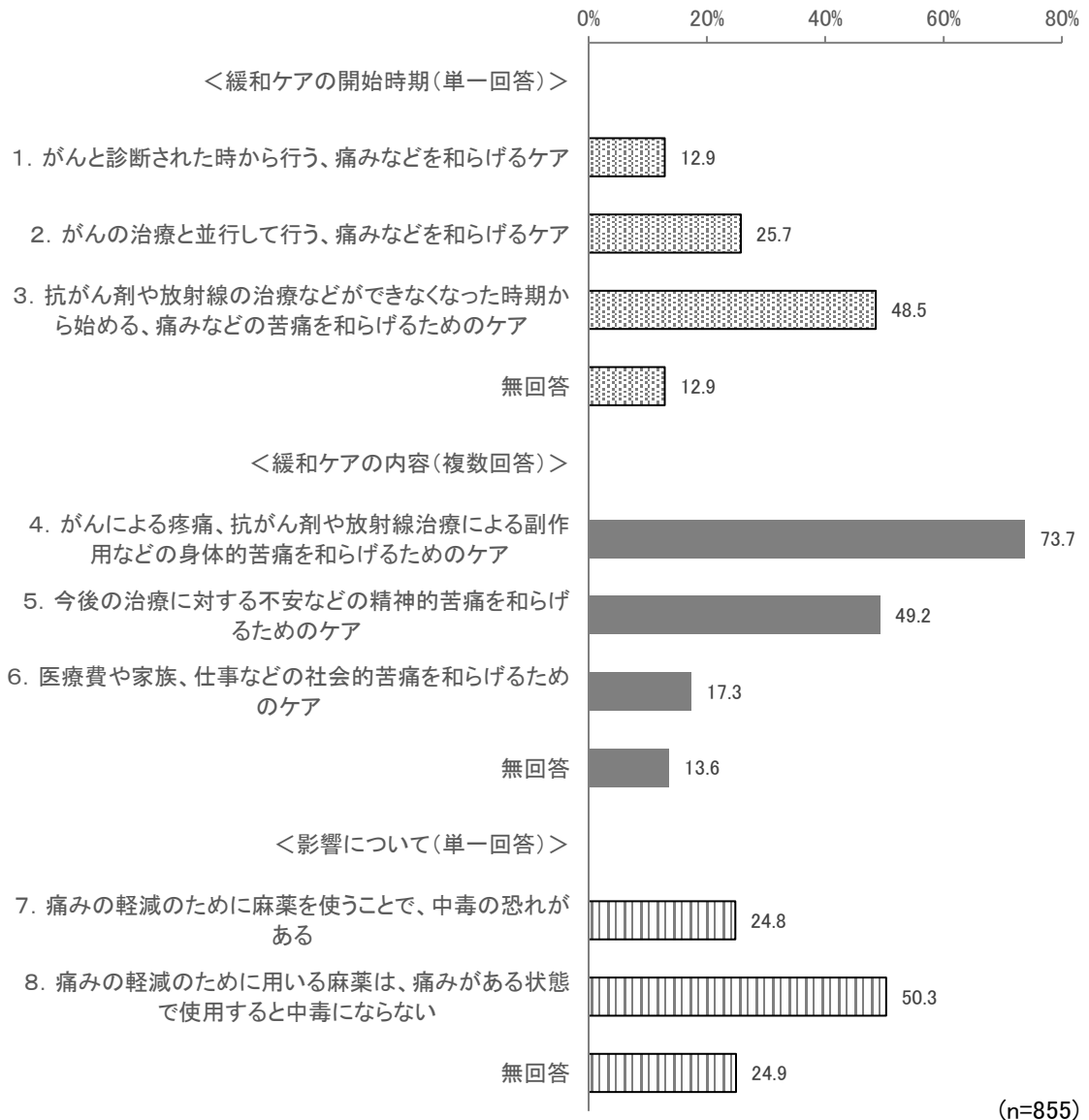
1～3からあてはまる選択肢を1つ、4～6からあてはまる選択肢を複数、7～8からあてはまる選択肢を1つ選んでください。

「がんの緩和ケア」の開始時期のイメージとしては、「抗がん剤や放射線の治療などができなくなった時期から始める、痛みなどの苦痛を和らげるためのケア」が48.5%で最も多く、次いで「がんの治療と並行して行う、痛みなどを和らげるケア」25.7%、「がんと診断された時から行う、痛みなどを和らげるケア」12.9%であった。

緩和ケアの内容としては、「がんによる疼痛、抗がん剤や放射線治療による副作用などの身体的苦痛を和らげるためのケア」が73.7%で最も多く、次いで「今後の治療に対する不安などの精神的苦痛を和らげるためのケア」49.2%、「医療費や家族、仕事などの社会的苦痛を和らげるためのケア」17.3%であった。

緩和ケアの影響については、「痛みの軽減のために用いる麻薬は、痛みがある状態で使用すると中毒にならない」が50.3%で最も多く、次いで「痛みの軽減のために麻薬を使うことで、中毒の恐れがある」24.8%であった。

図表 160 「がんの緩和ケア」のイメージ



5. 人生の最終段階(終末期)の過ごし方について

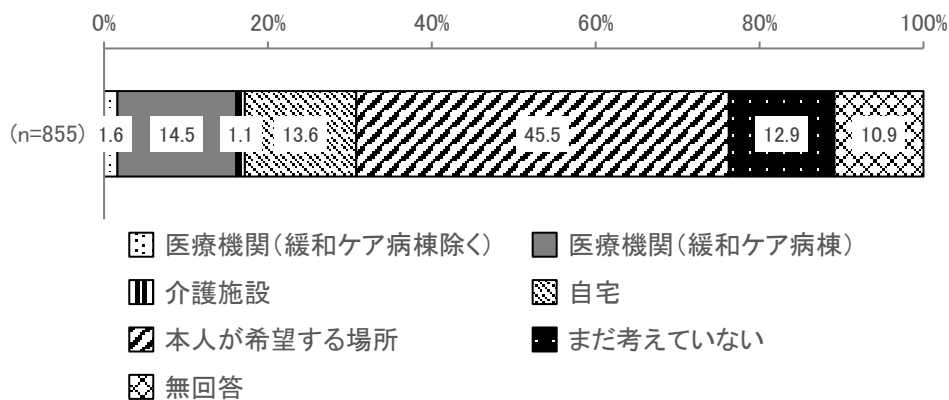
このパートは、がんを取り除くことが困難で、治療が難しい状態となる段階のことについて、可能な範囲での回答を依頼したものである。

1) 人生の最終段階をどこで過ごしてほしいと思うか

《問18》あなたは、患者様が、もし、人生の最終段階になられたとした場合、患者様にどこで過ごして欲しいと思いますか。(○は1つ)

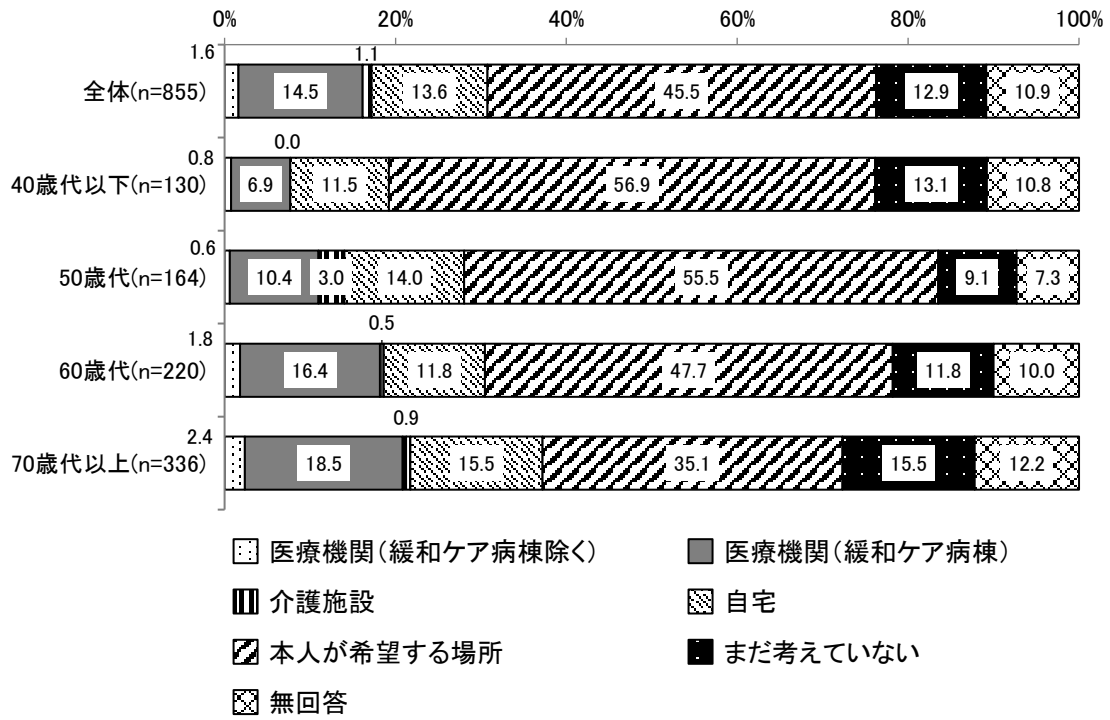
がんに罹患した家族が人生の最終段階をどこで過ごしてほしいか尋ねたところ、「本人が希望する場所」が45.5%で最も多く、次いで「医療機関(緩和ケア病棟)」が14.5%、「自宅」が13.6%であった。

図表 161 人生の最終段階を過ごす場所に関する希望



年齢階級別にみると、回答者の年齢が低いほど「本人が希望する場所」で過ごしてほしいと回答する割合が高く、40歳代以下では56.9%であった。一方、70歳代以上では35.1%であった。

図表 162 人生の最終段階を過ごす場所に関する希望【年齢階級別】

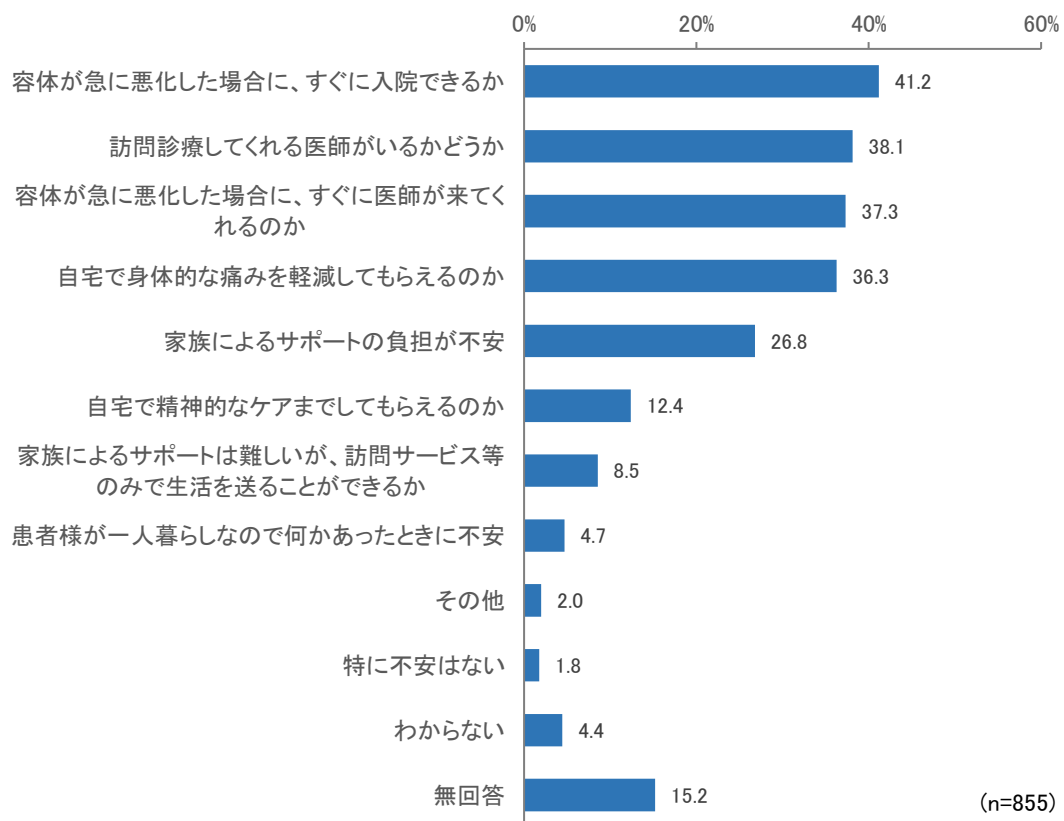


2) 人生の最終段階を「自宅で過ごす」場合、不安に思うことはあるか

《問19》患者様が、人生の最終段階を「自宅で過ごす」とした場合、不安に思うことはありますか。(〇は3つまで)

がんに罹患した家族が人生の最終段階を「自宅で過ごす」とした場合、不安に思うことはあるか尋ねたところ、「容体が急に悪化した場合に、すぐに入院できるか」が41.2%で最も多く、次いで「訪問診療してくれる医師がいるかどうか」が38.1%、「容体が急に悪化した場合に、すぐに医師が来てくれるのか」が37.3%、「自宅で身体的な痛みを軽減してもらえるのか」が36.3%であった。

図表 163 人生の最終段階を「自宅で過ごす」場合に不安に思うこと（複数回答）

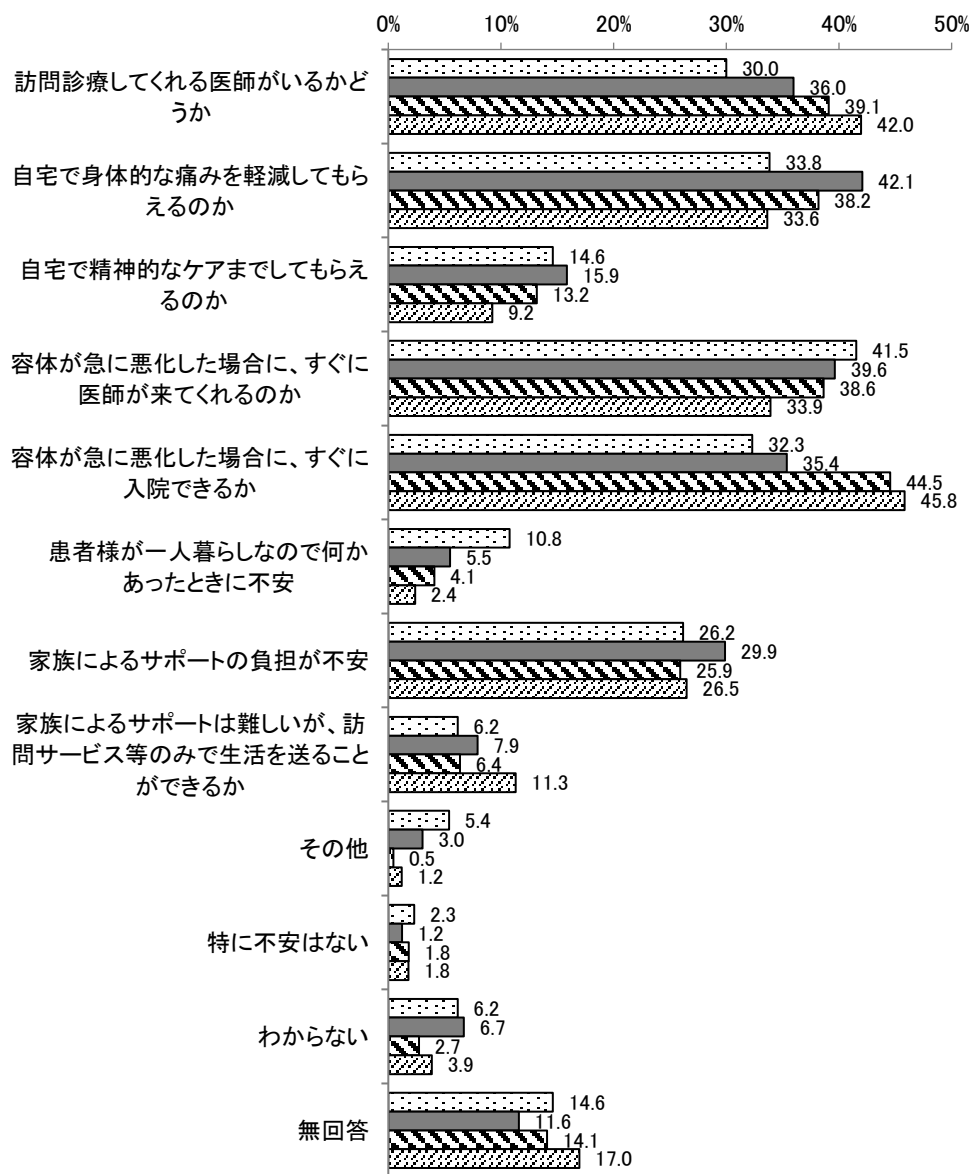


「その他」の具体的内容

- 自宅で過ごす為のサポートを体系化してほしい
- 仕事が休めるのか不安
- 医療費用負担が不安
- 要介護の配偶者をどうするか 等

がんに罹患した家族が人生の最終段階を「自宅で過ごす」とした場合、不安に思うことについて、回答者の年齢階級別にみると、「訪問診療してくれる医師がいるかどうか」と「容体が急に悪化した場合に、すぐに入院できるか」と回答する者の割合は、年齢が上がるにつれて高い傾向があり、「容体が急に悪化した場合に、すぐに医師が来てくれるのか」と回答する者の割合は、年齢が下がるにつれて高くなる傾向が見られた。

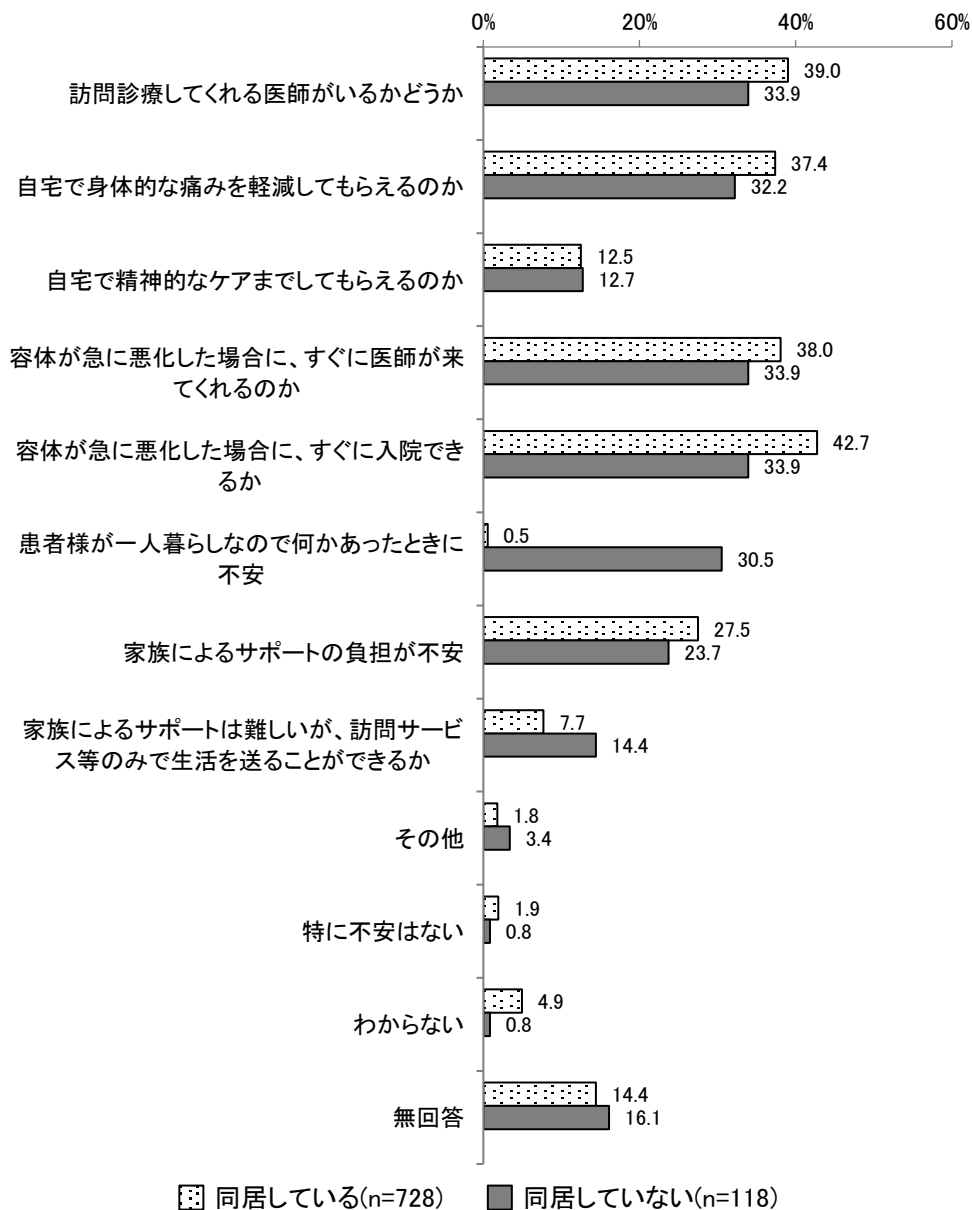
図表 164 人生の最終段階を「自宅で過ごす」場合に不安に思うこと（複数回答）【年齢階別】



□40歳代以下(n=130) ■50歳代(n=164) ▨60歳代(n=220) ▩70歳代以上(n=336)

がんに罹患した家族が人生の最終段階を「自宅で過ごす」とした場合、不安に思うことについて、患者との同居状況別にみると、「訪問診療してくれる医師がいるかどうか」、「自宅で身体的な痛みを軽減してもらえるのか」、「容体が急に悪化した場合に、すぐに入院できるか」の回答割合は、「同居している」が「同居していない」に比べて5ポイント以上高かった。

図表 165 人生の最終段階を「自宅で過ごす」場合に不安に思うこと（複数回答）【同居状況別】



6. 相談や困りごとについて

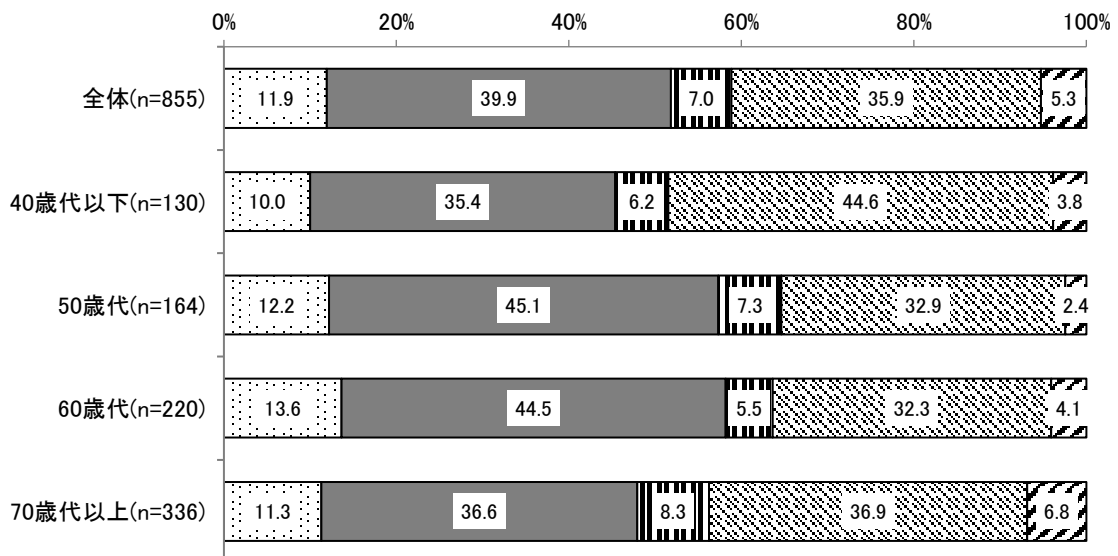
1) がん相談支援センターの認知度

《問20》本病院には「がん相談支援センター」が設置され、看護師やソーシャルワーカーが、患者やご家族の方などからの、がんに関する様々な相談を受け付けています。

あなたはがん相談支援センターを知っていますか。(○は1つ)

がん相談支援センターについては、「病院内にあり、家族が相談できることも知っているが、利用したことはない」が39.9%で最も多く、次いで「がん相談支援センターがあることを知らない」が35.9%であった。一方で、「病院内にあることを知っており、利用したことがある」と回答した者は11.9%に留まった。

図表 166 がん相談支援センターの認知度【年齢階級別】



- 病院内にあることを知っており、利用したことがある
- 病院内にあり、家族が相談できることも知っているが、利用したことはない
- ▨ 病院内にあることは知っているが、患者の家族が利用できることは知らなかった
- ▩ がん相談支援センターがあることを知らない
- ◻ 無回答

図表 167 へ

図表 173 へ

2) がん相談支援センターについての医療従事者からの説明

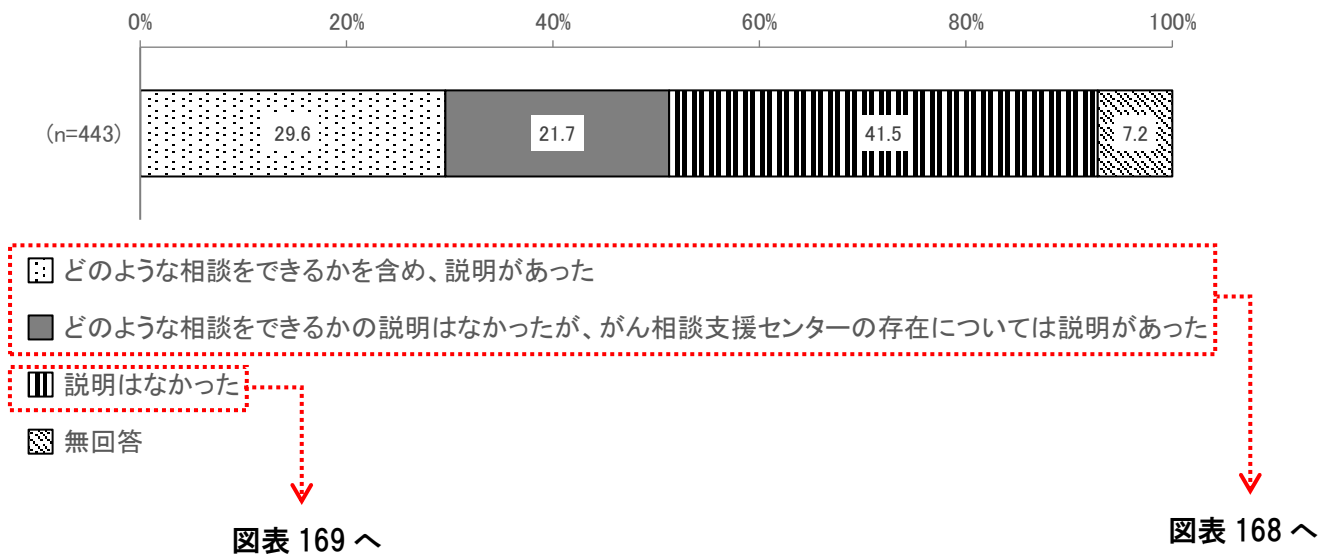
《問21》問20で「1. 病院内にあることを知っており、利用したことがある」または「2. 病院内にあり、家族が相談できることも知っているが、利用したことはない」と回答された方に伺います。

がん相談支援センターについて、医療従事者から説明はありましたか。

(○は1つ)

がん相談支援センターについて、「病院内にあることを知っており、利用したことがある」または「病院内にあり、家族が相談できることも知っているが、利用したことはない」と回答した443人に、医療従事者からの説明があったかを尋ねたところ、「説明はなかった」が41.5%と最も多く、次いで「どのような相談をできるかを含め、説明があった」が29.6%、「どのような相談をできるかの説明はなかったが、がん相談支援センターの存在については説明があった」が21.7%であった。

図表 167 がん相談支援センターについての医療従事者からの説明

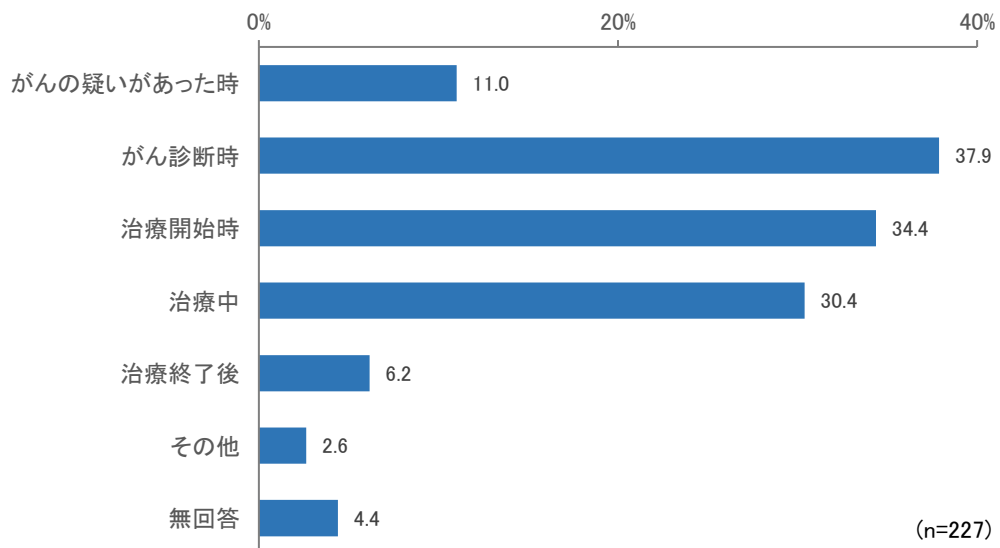


3) がん相談支援センターについて説明があった時期

《問22》問21で「1. どのような相談をできるかを含め、説明があった」または「2. どのような相談をできるかの説明はなかったが、がん相談支援センターの存在については説明があった」と回答された方に伺います。
説明があったのはいつですか。(〇はいくつでも)

がん相談支援センターについて、「どのような相談をできるかを含め、説明があった」または「どのような相談をできるかの説明はなかったが、がん相談支援センターの存在については説明があった」と回答した227人に、医療従事者からの説明の時期を尋ねたところ、「がん診断時」が37.9%で最も多く、次いで「治療開始時」が34.4%、「治療中」が30.4%であった。

図表 168 がん相談支援センターについて説明があった時期（複数回答）



「その他」の具体的内容

- 転院してきたそのタイミングで
- 入院前 等

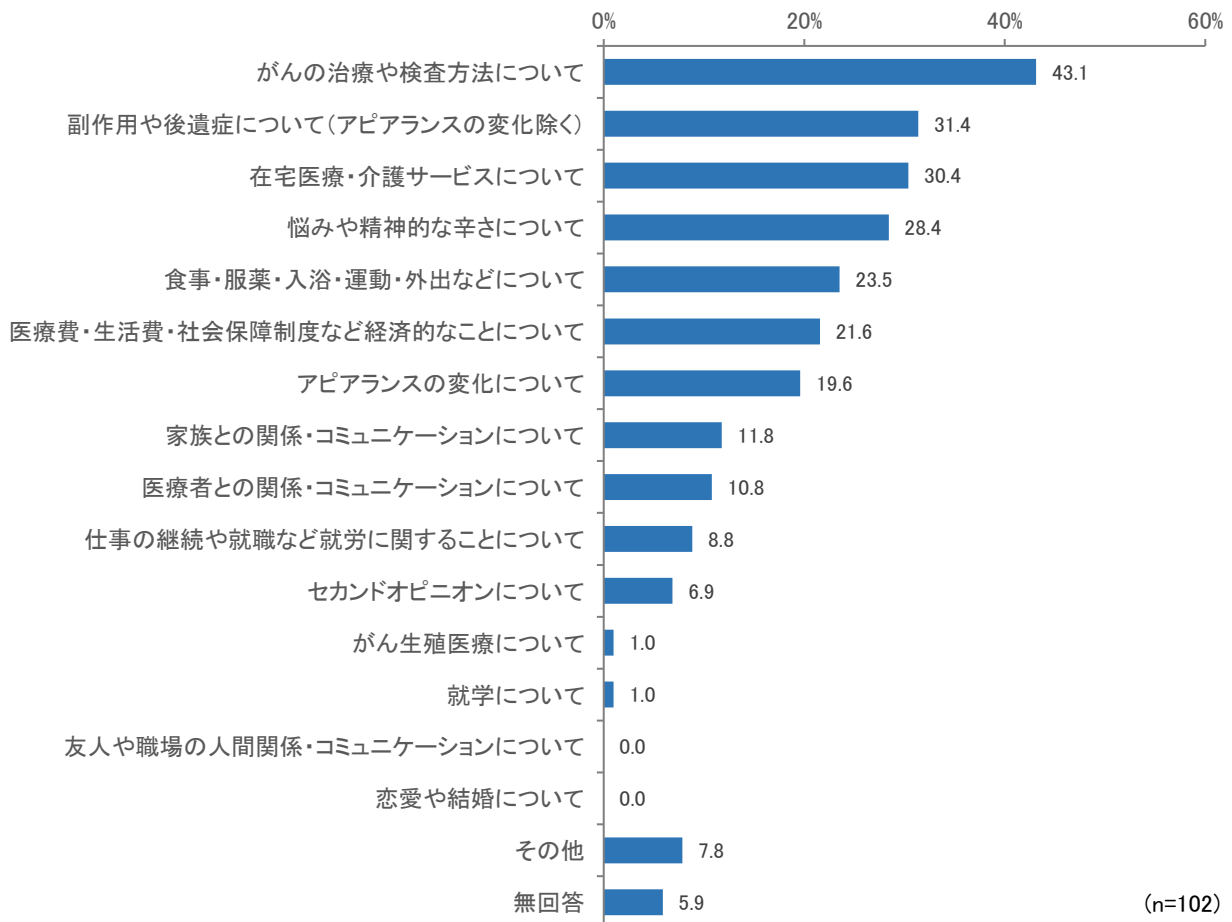
4) がん相談支援センターで相談した内容

《問23》問20で「1. 病院内にあることを知っており、利用したことがある」と回答された方に伺います。

がん相談支援センターでは、どのようなことを相談されましたか。(〇はいくつでも)

がん相談支援センターについて、「病院内にあることを知っており、利用したことがある」と回答した102人に、相談した内容を尋ねたところ、「がんの治療や検査方法について」が43.1%で最も多く、次いで「副作用や後遺症について(アピアランスの変化除く)」が31.4%、「在宅医療・介護サービスについて」が30.4%であった。

図表 169 がん相談支援センターでの相談内容（複数回答）



「その他」の具体的内容

- この病院に通えなくなった時について
- 退院後の地元の病院との連携について 等

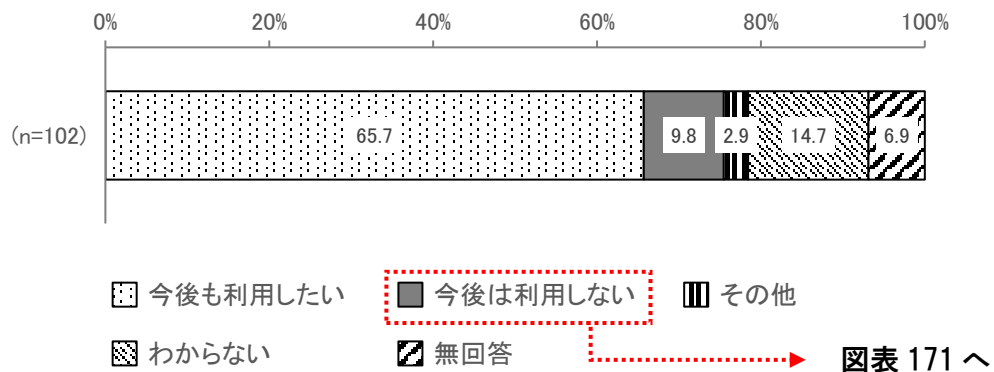
5) がん相談支援センター利用経験者における今後の利用意向

《問24》問20で「1. 病院内にあることを知っており、利用したことがある」と回答された方に伺います。

(1) がん相談支援センターを、今後も利用したいですか。(○は1つ)

がん相談支援センターについて、「病院内にあることを知っており、利用したことがある」と回答した102人に、今後の利用意向を尋ねたところ、「今後も利用したい」と回答した者が65.7%であり、「今後は利用しない」と回答した者は9.8%であった。

図表 170 がん相談支援センター利用経験者における今後の利用意向



6) がん相談支援センターを今後は利用しないと考える理由

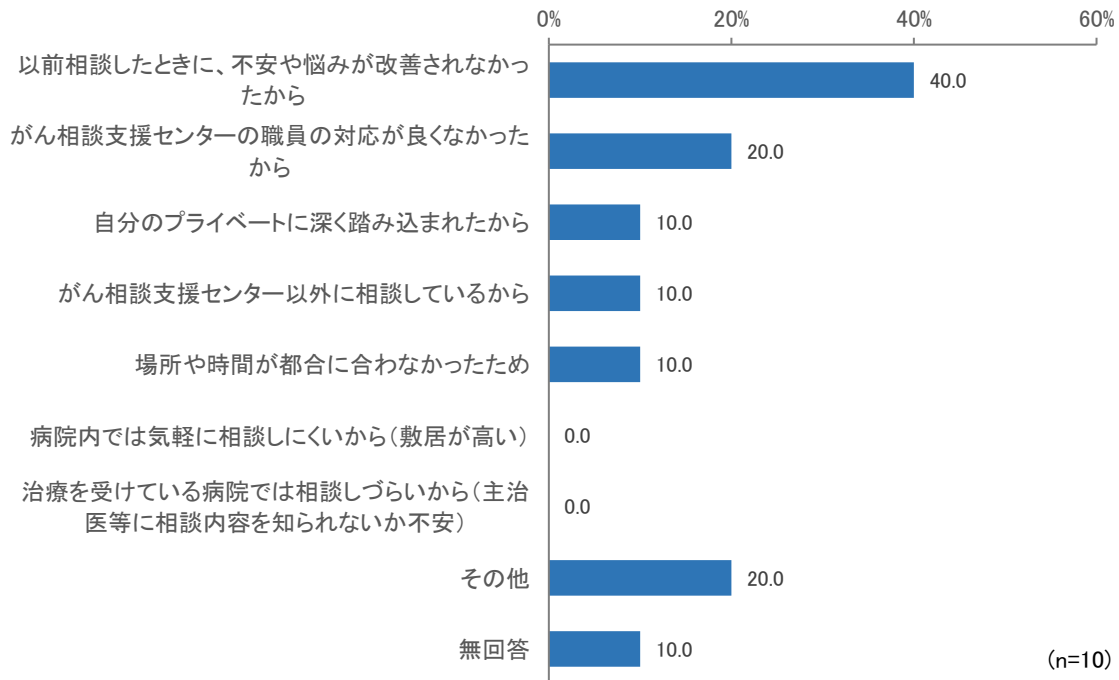
《問24》問20で「1. 病院内にあることを知っており、利用したことがある」と回答された方に伺います。

(2)(1)で「2. 今後は利用しない」を選んだ場合、その理由は何ですか。(〇はいくつでも)

「今後は利用しない」と回答した10人に、その理由を尋ねたところ、「以前相談したときに、不安や悩みが改善されなかったから」が40.0%で最も多く、次いで「がん相談支援センターの職員の対応が良くなかったから」が20.0%であった。

ただし、回答数が少ない点に留意する必要がある。

図表 171 がん相談支援センターを今後は利用しないと考える理由（複数回答）



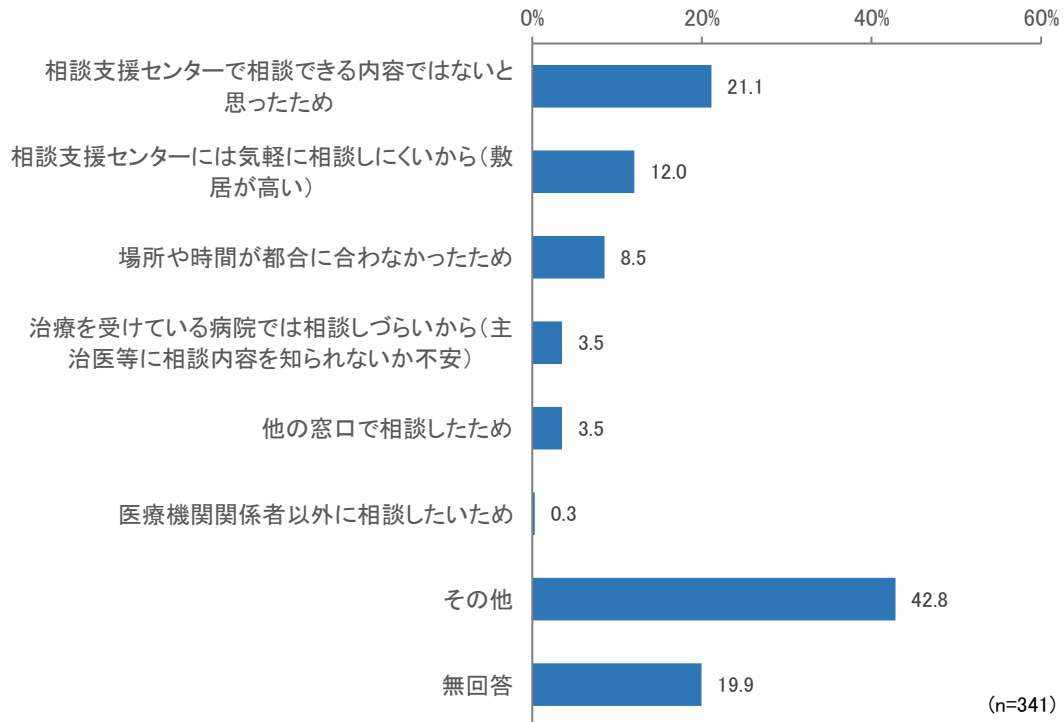
7) がん相談支援センターを知っているが利用していない理由

《問25》問20で「2. 病院内にあり、家族が相談できることも知っているが、利用したことはない」と回答された方に伺います。

利用していない理由は何ですか。(〇はいくつでも)

がん相談支援センターについて、「病院内にあり、家族が相談できることも知っているが、利用したことはない」と回答した341人に、利用していない理由を尋ねたところ、「相談支援センターで相談できる内容ではないと思ったため」が21.1%で最も多く、次いで「相談支援センターには気軽に相談しにくいから(敷居が高い)」が12.0%、「場所や時間が都合に合わなかったため」が8.5%であった。

図表 172 がん相談支援センターを知っているが利用していない理由(複数回答)



「その他」の具体的内容

- 相談したい状況ではないため
- 担当医との会話で解決できたから
- 今は相談しなくても生活できているから
- ネットなどの情報で十分に知識を持っていた 等

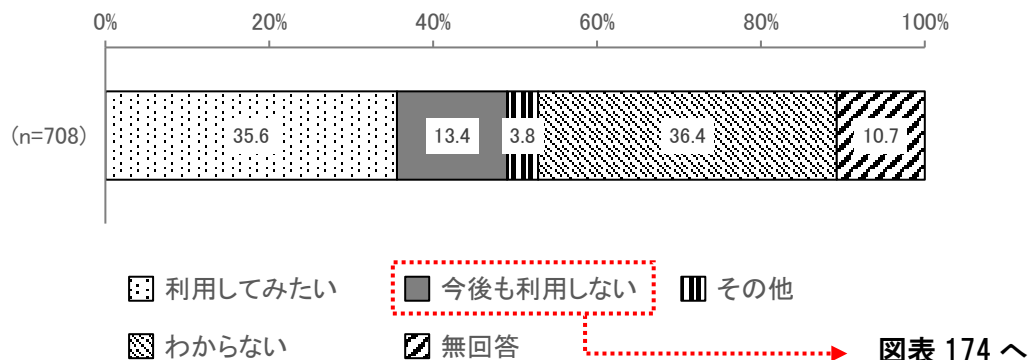
8) がん相談支援センターを利用したことがない者の今後の利用意向

《問26》問20で「2. 病院内にあり、家族が相談できることも知っているが、利用したことはない」または「3. 病院内にあることは知っているが、患者の家族が利用できることは知らなかった」または「4. がん相談支援センターがあることを知らない」と回答された方に伺います。

(1) 今後、がん相談支援センターを利用してみたいと思いますか。(〇は1つ)

がん相談支援センターについて、「病院内にあり、家族が相談できることも知っているが、利用したことはない」または「病院内にあることは知っているが、患者の家族が利用できることは知らなかった」または「がん相談支援センターがあることを知らない」と回答した708人に、今後の利用意向を尋ねたところ、「利用してみたい」と回答した者が35.6%であり、「今後も利用しない」と回答した者は13.4%であった。

図表 173 がん相談支援センター利用未経験者における今後の利用意向



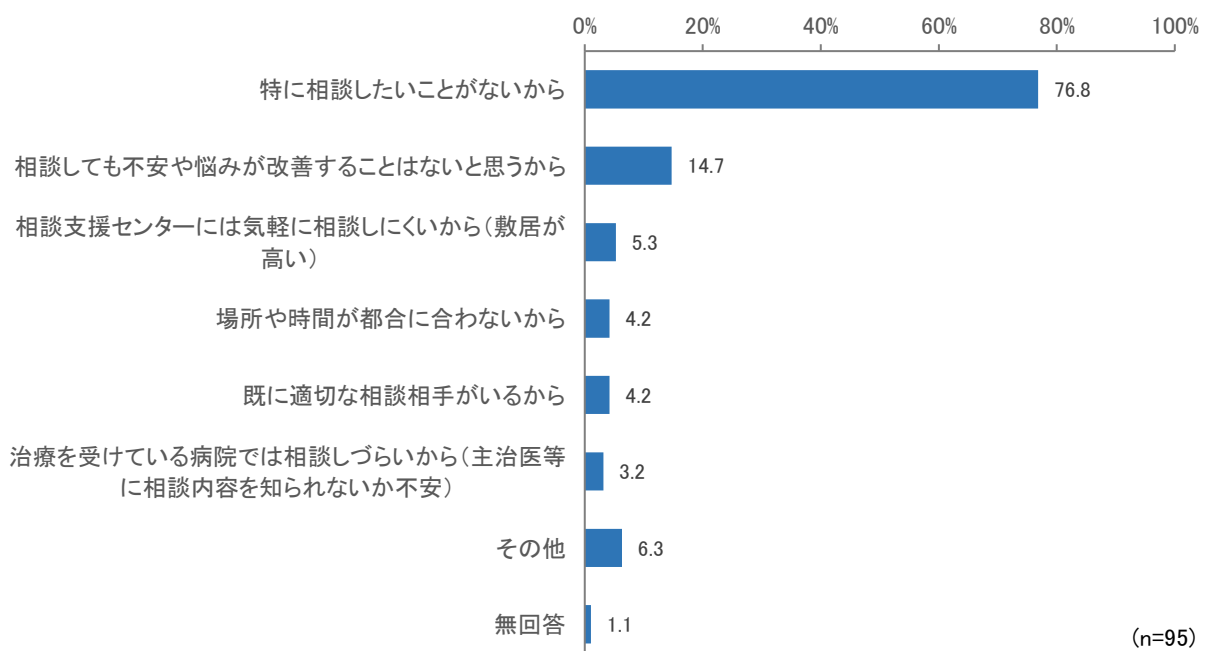
9) がん相談支援センターを今後も利用しない理由

《問26》問20で「2. 病院内にあり、家族が相談できることも知っているが、利用したことはない」または「3. 病院内にあることは知っているが、患者の家族が利用できることは知らなかった」または「4. がん相談支援センターがあることを知らない」と回答された方に伺います。

(2) (1) で「2. 今後も利用しない」を選んだ場合、その理由は何ですか。(〇はいくつでも)

「今後も利用しない」と回答した95人に、その理由を尋ねたところ、「特に相談したいことがないから」が76.8%で最も多く、次いで「相談しても不安や悩みが改善することはないと思うから」が14.7%であった。

図表 174 がん相談支援センターを今後も利用しないと考える理由（複数回答）



10) 家族向けサロンの参加経験

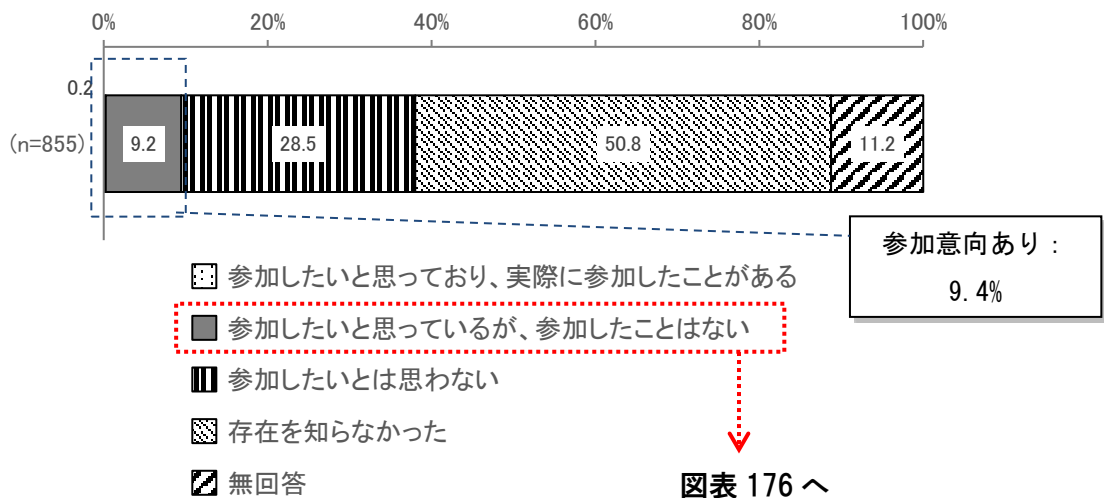
《問27》がん患者や経験者など、同じ立場の人が自由に集いがんについて気軽に語り合える交流の場を「患者サロン」といいますが、がん患者の家族向けの「家族向けサロン」も存在します。

あなたはこれまで、家族向けサロンに参加したことはありますか。(〇は1つ)

がん患者の家族など、同じ立場の人が自由に集いがんについて気軽に語り合える交流の場（家族向けサロン）に参加したことがあるかどうか尋ねたところ、「参加したいと思っており、実際に参加したことがある」と回答した者は0.2%に留まっており、「参加したいと思っているが、参加したことはない」も9.2%と、交流意向がある者は全体の1割程度であった。

一方、「参加したいとは思わない」が28.5%、「存在を知らなかった」が50.8%であり、全体の半数近くは存在を知らなかったと回答した。

図表 175 家族向けサロンの参加経験



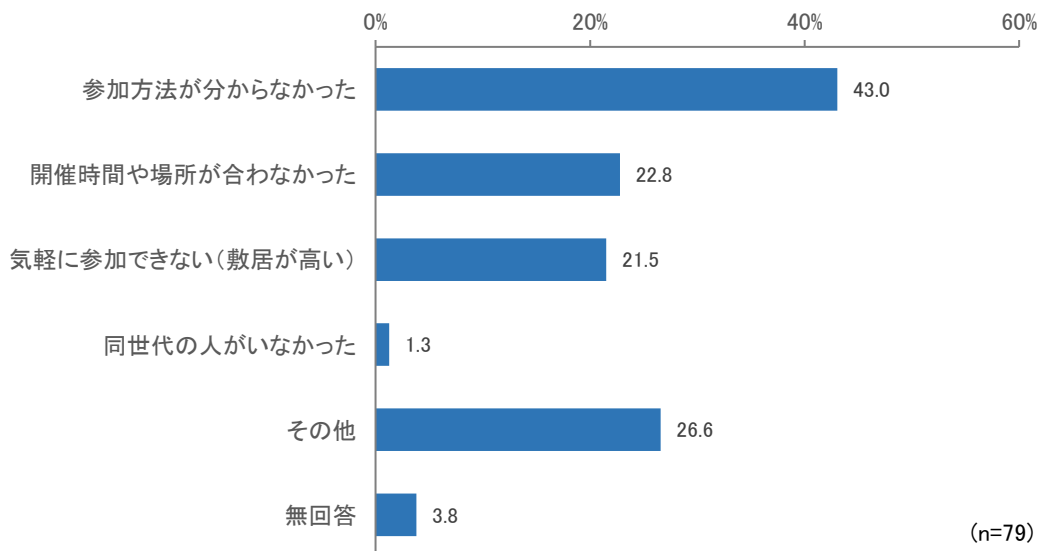
11) 家族向けサロンに参加したいが、したことがない理由

《問28》問27で「2. 参加したいと思っているが、参加したことはない」と回答された方に伺います。

家族向けサロンに参加したことがない理由は何ですか。(〇はいくつでも)

家族向けサロンについて、「参加したいと思っているが、参加したことはない」と回答した79人に、その理由を尋ねたところ、「参加方法が分からなかった」が43.0%で最も多く、次いで「開催時間や場所が合わなかった」が22.8%、「気軽に参加できない(敷居が高い)」が21.5%であった。

図表 176 家族向けサロンに参加したいが、したことがない理由(複数回答)



「その他」の具体的内容

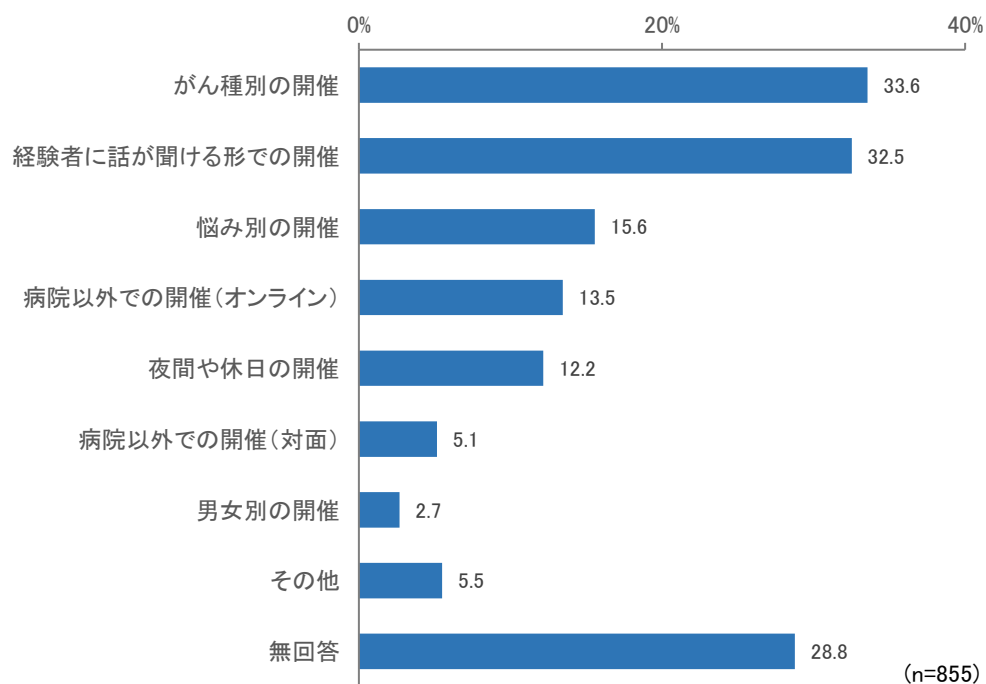
- 自分が辛くなるから
- 仕事が忙しい
- 参加したいが参加時間がない
- 病状も落ち着いているので必要性を感じない 等

12) 家族向けサロンで希望する開催方法

《問29》家族向けサロンに参加するにあたり、どのような開催方法であれば、参加しやすいと思いますか。(〇はいくつでも)

家族向けサロンに参加するにあたり、どのような開催方法であれば、参加しやすいと思うか尋ねたところ、「がん種別の開催」が33.6%で最も多く、次いで「経験者に話が聞ける形での開催」が32.5%、「悩み別の開催」が15.6%であった。

図表 177 家族向けサロンで希望する開催方法（複数回答）



「その他」の具体的内容

- ネット掲示板の様に気軽に参加できるもの
- 年代別の開催
- ステージ別 等

13) ピアサポートを受ける意向

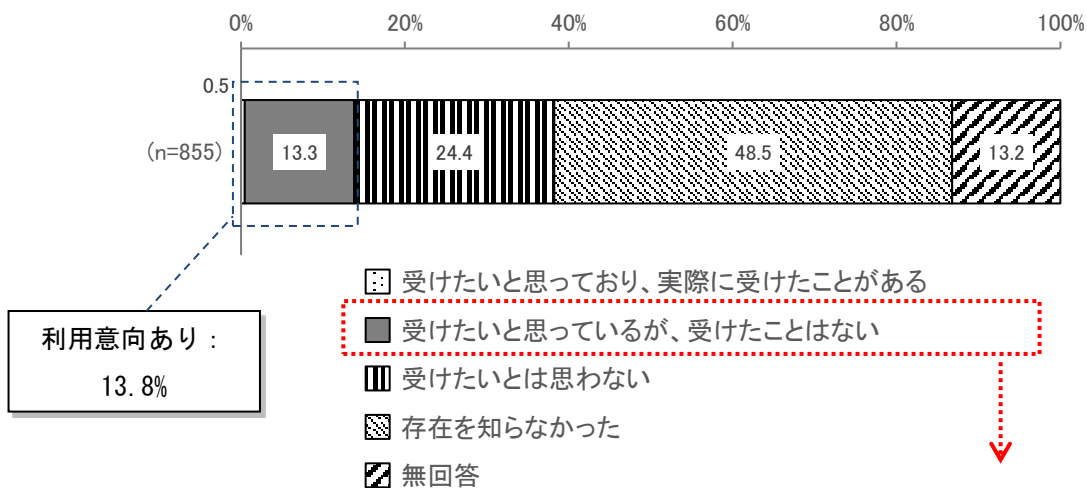
《問30》がん患者や家族の悩みに対して、がん経験者等が、同じ経験を持つ仲間（ピア）として自分の経験を生かしながら相談や支援を行う取組のことを「ピアサポート」といいます。

あなたは、ピアサポートを受けたいと思いますか。（○は1つ）

がん患者や家族の悩みに対して、がん経験者等が、同じ経験を持つ仲間（ピア）として自分の経験を生かしながら相談や支援を行う「ピアサポート」を受けてみたいか尋ねたところ、「受けたいと思っており、実際に受けたことがある」と回答した者は0.5%に留まっており、「受けたいと思っているが、受けたことはない」が13.3%であった。

一方、「受けたいとは思わない」は24.4%であった。また、「存在を知らなかった」が48.5%であった。

図表 178 ピアサポートに関する意向



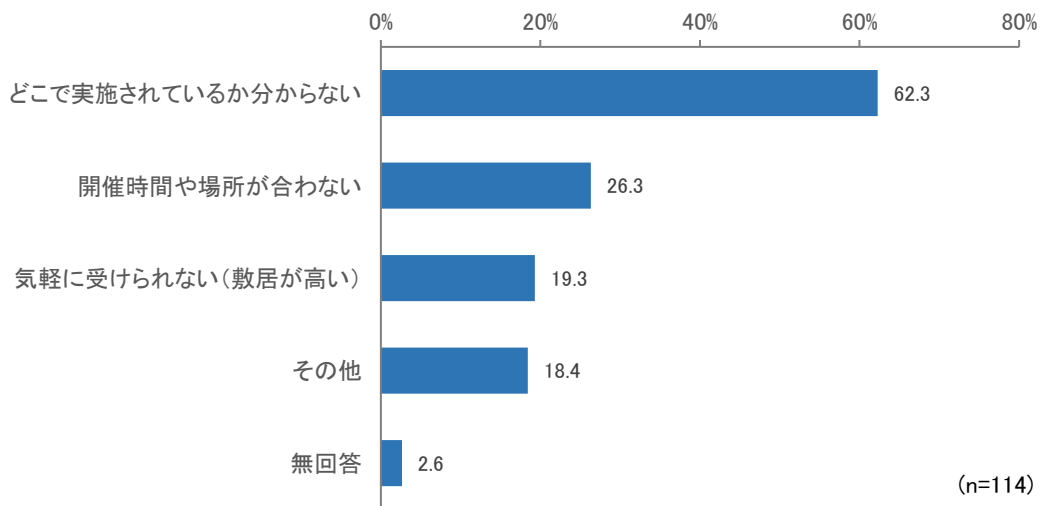
14) ピアサポートを受けたいが、受けたことがない理由

《問31》問30で「2. 受けたいと思っているが、受けたことはない」と回答された方に伺います。

受けたことがない理由は何ですか。(〇はいくつでも)

ピアサポートについて、「受けたいと思っているが、受けたことはない」と回答した114人に、受けたことがない理由を尋ねたところ、「どこで実施されているか分からない」が62.3%で最も多く、次いで「開催時間や場所が合わない」が26.3%、「気軽に受けられない(敷居が高い)」が19.3%であった。

図表 179 ピアサポートを受けたことがない理由(複数回答)



「その他」の具体的内容

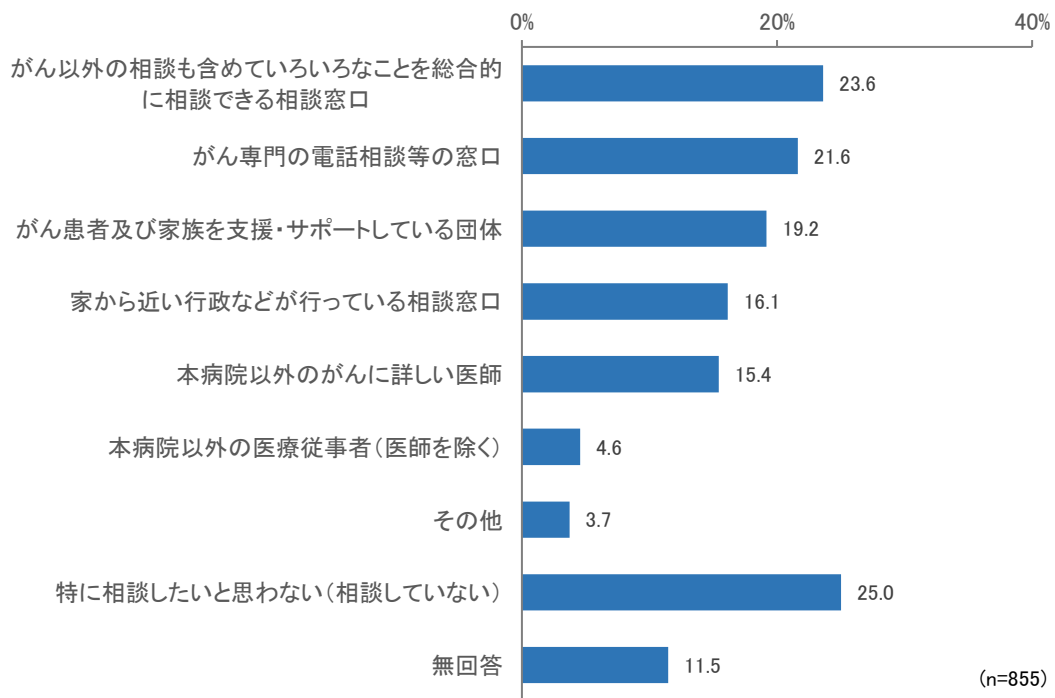
- 仕事が忙しい
- 今はまだ必要がない
- 今いる所からでは遠い 等

15) 「がん相談支援センター」「家族向けサロン」「ピアサポート」以外の相談先
 ≪問32≫あなたは、「がん相談支援センター」や「家族向けサロン」「ピアサポ
 ート」以外に専門職や相談窓口等に相談されるとしたら、どこに相談したい
 ですか。または普段相談されていますか。(〇はいくつでも)

「がん相談支援センター」「家族向けサロン」「ピアサポート」以外での相談先として
 は、「がん以外の相談も含めていろいろなことを総合的に相談できる相談窓口」が23.6%
 で最も多く、次いで「がん専門の電話相談等の窓口」が21.6%、「がん患者及び家族を
 支援・サポートしている団体」が19.2%であった。

一方で、「特に相談したいと思わない(相談していない)」と回答した者は25.0%であ
 った。

図表 180 「がん相談支援センター」「家族向けサロン」「ピアサポート」以外の相談先(複数回答)



「その他」の具体的内容

- 夫、妻、家族、子供
- ホームドクター
- 知り合いの医師
- SNS等の交流サイト 等

7. 就労について

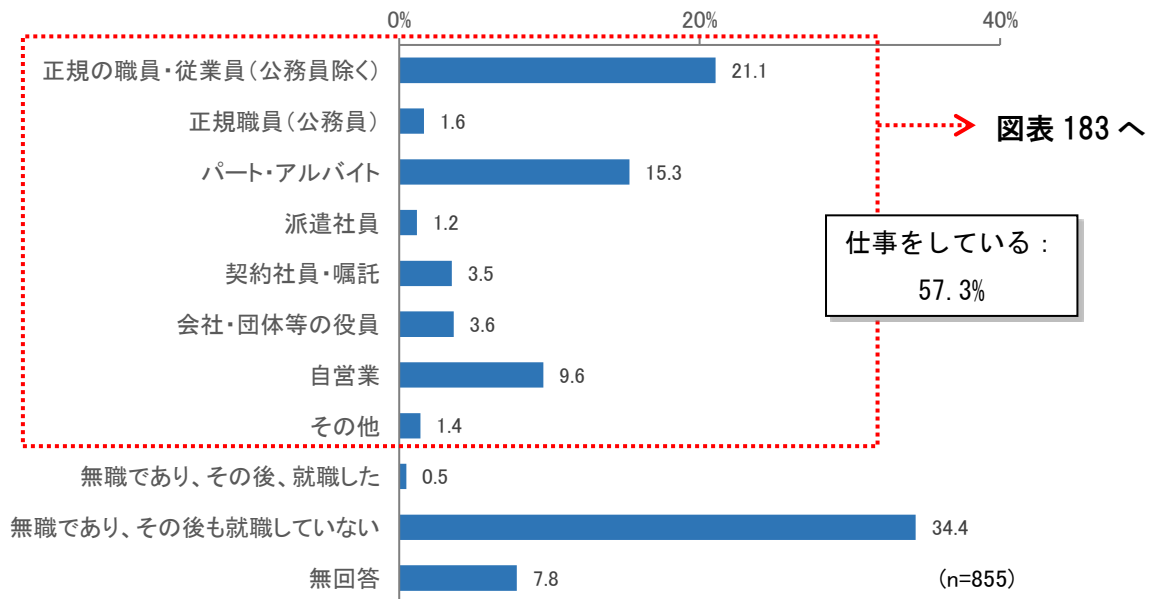
1) 家族ががんと診断されたときの自身の就労状況

- 《問33》 (1) 患者様ががんと診断されたときの、あなたの就労状況を教えてください。(○は1つ)
 (2) また、就労されていた場合、会社の正規職員数はどのくらいの規模でしたか。(○は1つ)

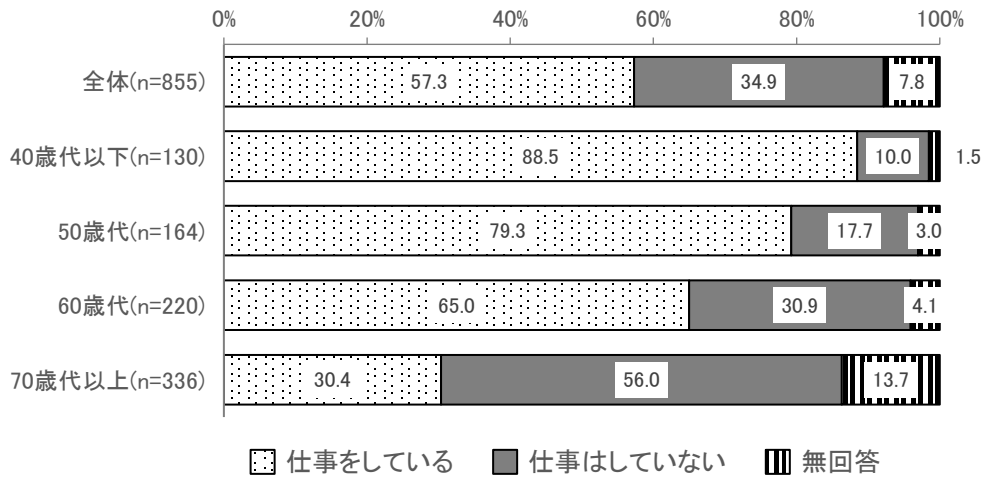
家族ががんと診断されたときの自身の就労状況としては、「無職であり、その後も就職していない」が34.4%で最も多く、次いで「正規の職員・従業員（公務員除く）」が21.1%、「パート・アルバイト」が15.3%であった。

年齢階級別にみると、40歳代以下、50歳代では70%超が何らかの仕事に就いていた。

図表 181 家族ががんと診断されたときの自身の就労状況

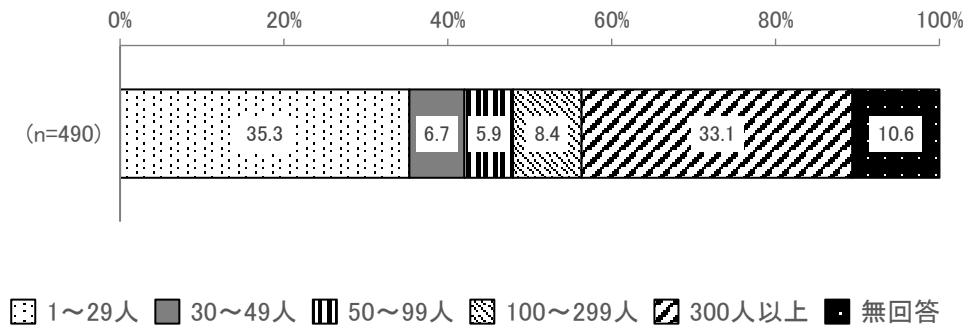


図表 182 家族ががんと診断されたときの自身の就労状況【年齢階級別】



就労していたと回答した 490 人の会社の正規職員数としては、「1～29 人」が 35.3%で最も多く、次いで「300 人以上」が 33.1%、「100～299 人」が 8.4%であった。

図表 183 働いていた会社の正規職員数



2) 家族ががんに罹患したことによる仕事への影響

＜家族ががんに罹患したことによる仕事への影響の有無＞

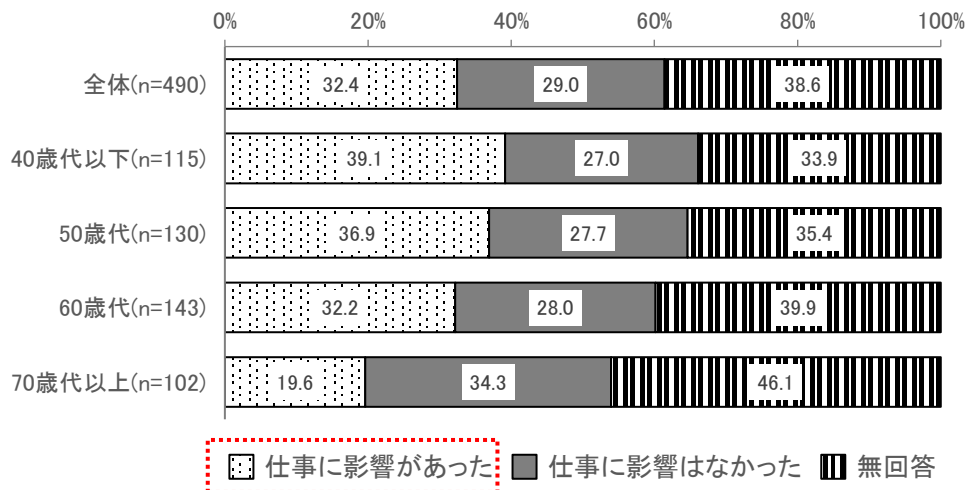
《問34》問33で「9. 無職であり、その後、就職した」「10. 無職であり、その後も就職していない」以外を選んだ方に伺います。

(1) 患者様ががんに罹患されたことにより、あなたのお仕事に影響がありましたか。(○は1つ)

家族ががんと診断されたときに就労していた490人に、仕事への影響を尋ねたところ、「仕事に影響があった」と回答した者は32.4%であり、「仕事に影響はなかった」と回答した者は29.0%であった。

年齢階級別にみると、年齢が低いほど「仕事に影響があった」と回答した者の割合が高くなる傾向が見られた。

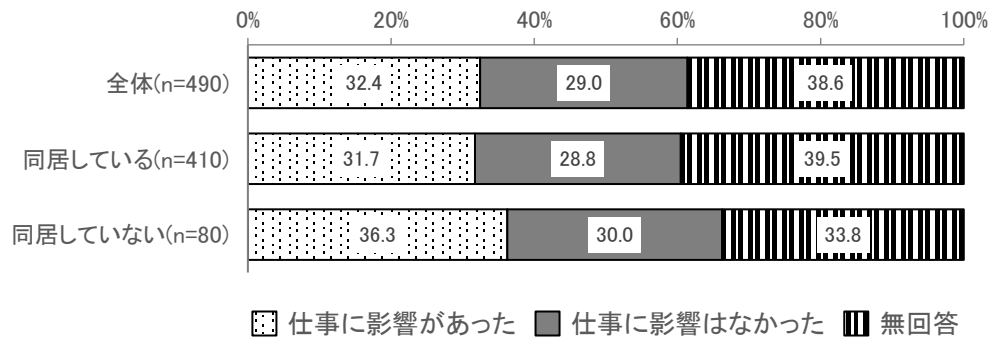
図表 184 家族ががんに罹患したことによる仕事への影響の有無【年齢階級別】



図表 189 へ

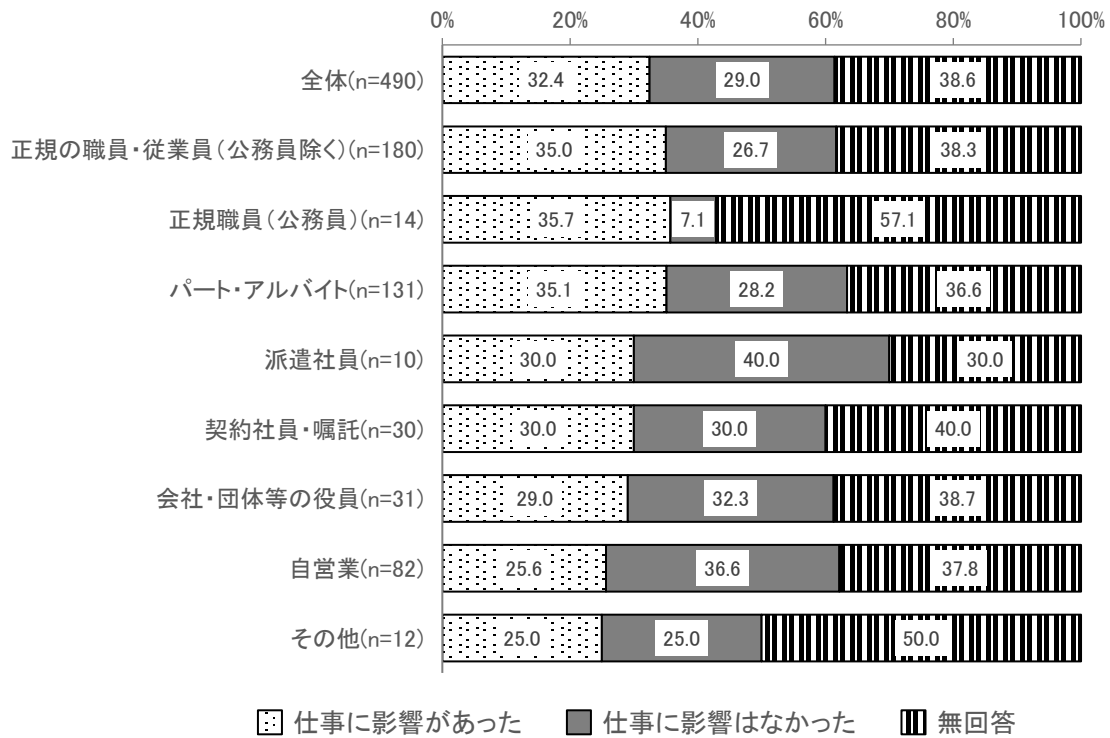
家族ががんと診断されたときに就労していた 490 人の仕事への影響を、患者との同居状況別にみると、若干ではあるが、同居していない場合において、「仕事に影響があった」と回答した者の割合が高かった。

図表 185 家族ががんに罹患したことによる仕事への影響の有無【同居状況別】



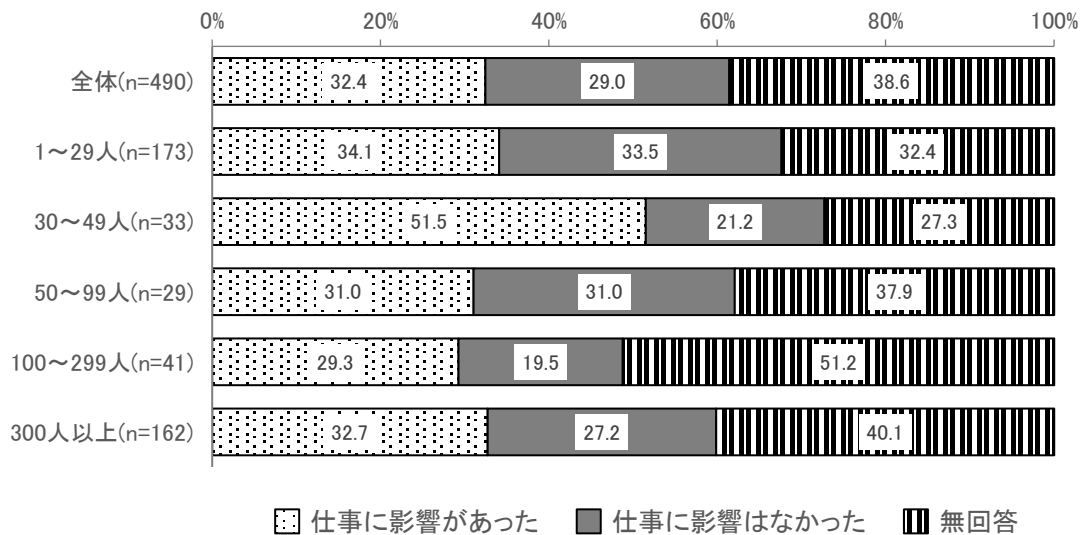
家族ががんと診断されたときに就労していた 490 人の仕事への影響を、家族のがん診断時における自身の就労状況別にみると、「仕事に影響があった」と回答した者の割合は「正規職員（公務員）」で 35.7%と最も高く、次いで「パート・アルバイト」で 35.1%、「正規の職員・従業員（公務員除く）」で 35.0%であった。

図表 186 家族ががんに罹患したことによる仕事への影響の有無
【家族ががんと診断したときの自身の就労状況別】



家族ががんと診断されたときに就労していた 490 人の仕事への影響を、会社の正規職員数別にみると、「仕事に影響があった」と回答した者の割合は「30～49人」で 51.5% と最も高く、次いで「1～29人」で 34.1%、「300人以上」で 32.7%であった。

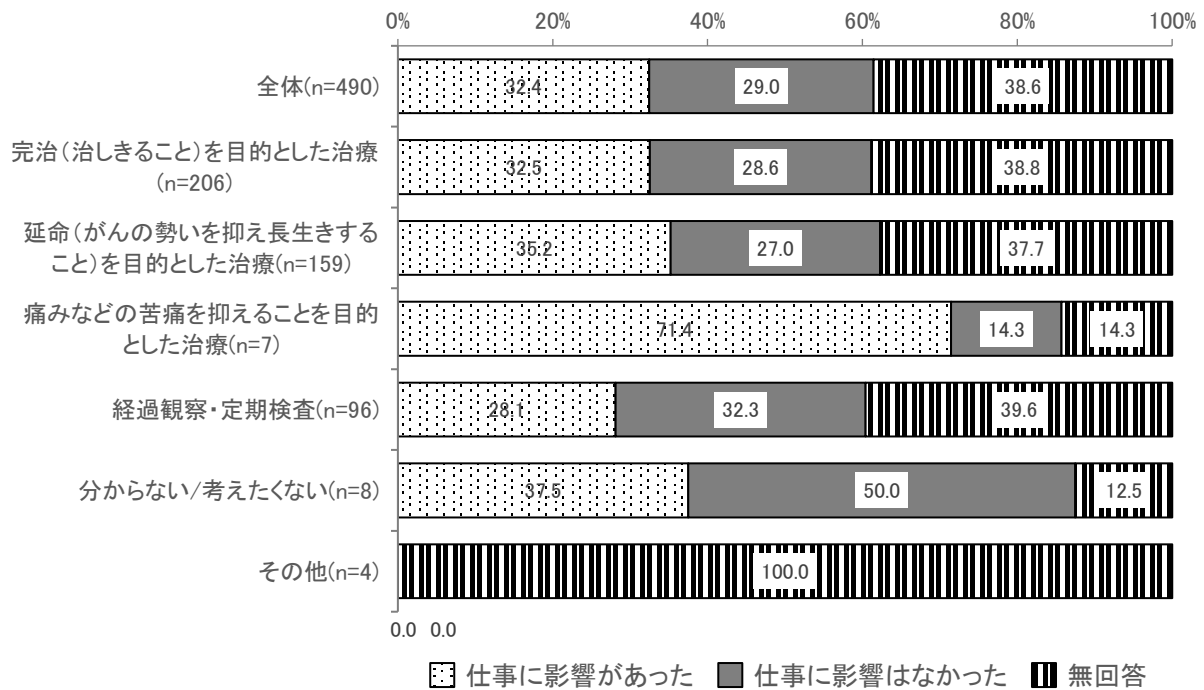
図表 187 家族ががんに罹患したことによる仕事への影響の有無【働いていた会社の正規職員数別】



家族ががんと診断されたときに就労していた 490 人の仕事への影響を、現在の治療状況別にみると、「仕事に影響があった」と回答した者の割合は「痛みなどの苦痛を抑えることを目的とした治療」で 71.4%と最も高く、次いで「分からない/考えたくない」で 37.5%、「延命（がんの勢いを抑え長生きすること）を目的とした治療」で 35.2%であった。

ただし、「痛みなどの苦痛を抑えることを目的とした治療」、「分からない/考えたくない」は調査数が少ない点に留意する必要がある。

図表 188 家族ががんに罹患したことによる仕事への影響の有無【現在の治療状況別】



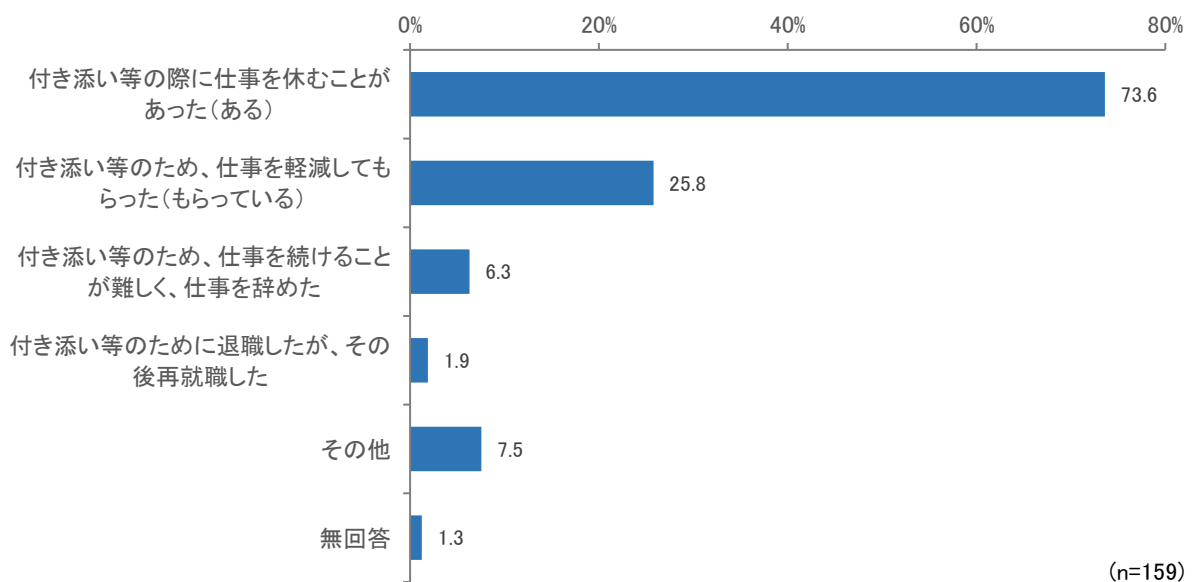
＜家族が罹患したことによる仕事への影響の内容＞

《問34》問33で「9. 無職であり、その後、就職した」「10. 無職であり、その後も就職していない」以外を選んだ方に伺います。

(2) (1) で「1. 仕事に影響があった」を選んだ場合、具体的に影響があった内容について教えてください。(〇はいくつでも)

家族が罹患したことにより「仕事への影響があった」と回答した159人に、具体的な内容を尋ねたところ、「付き添い等の際に仕事を休むことがあった(ある)」が73.6%で最も多く、次いで「付き添い等のため、仕事を軽減してもらった(もらっている)」が25.8%、「付き添い等のため、仕事を続けることが難しく、仕事を辞めた」が6.3%であった。

図表 189 家族が罹患したことによる仕事への影響の内容 (複数回答)



「その他」の具体的内容

- 先の事を考えパート日数を増すべく転職した
- 精神的に落ち込み、仕事に集中できない
- 定年の1ヶ月前だったので、繰り上げて退職した
- 何かあった時にすぐかけつけられるよう、近くの会社に転職した 等

家族が罹患したことにより「仕事への影響があった」と回答した159人の具体的な影響内容を年齢階級別にみると、「付き添い等の際に仕事を休むことがあった(ある)」と回答した者の割合は、「50歳代」で85.4%と最も高く、次いで「60歳代」が73.9%と、「40歳代以下」が73.3%であった。

「付き添い等のため、仕事を続けることが難しく、仕事を辞めた」と回答した者の割合は、「70歳代以上」で15.0%と、他の年代と比較して高かった。

ただし、「付き添い等のため、仕事を続けることが難しく、仕事を辞めた」は調査数が少ない点に留意する必要がある。

図表 190 家族が罹患したことによる仕事への影響の内容（複数回答）【年齢階級別】

上段：調査数（件）
下段：割合（%）

	調査数	付き添い等のため、仕事を続けることが難しく、仕事を辞めた	付き添い等の際に仕事を休むことがあった(ある)	付き添い等のため、仕事を軽減してもらった(もらっている)	付き添い等のために退職したが、その後再就職した	その他	無回答
全体	159 100.0	10 6.3	117 73.6	41 25.8	3 1.9	12 7.5	2 1.3
40歳代以下	45 100.0	4 8.9	33 73.3	10 22.2	0 0.0	4 8.9	1 2.2
50歳代	48 100.0	1 2.1	41 85.4	13 27.1	3 6.3	1 2.1	0 0.0
60歳代	46 100.0	2 4.3	34 73.9	11 23.9	0 0.0	4 8.7	1 2.2
70歳代以上	20 100.0	3 15.0	9 45.0	7 35.0	0 0.0	3 15.0	0 0.0

家族が罹患したことにより「仕事への影響があった」と回答した159人の具体的な影響内容を、就労状況別にみると、「付き添い等のため、仕事を続けることが難しく、仕事を辞めた」と回答した者の割合は「契約社員・嘱託」で22.0%と、他の雇用形態と比較して高かった。

ただし、「付き添い等のため、仕事を続けることが難しく、仕事を辞めた」は調査数が少ない点に留意する必要がある。

図表 191 家族が罹患したことによる仕事への影響の内容（複数回答）

【家族ががんと診断されたときの自身の就労状況別】

上段：調査数（件）

下段：割合（%）

	調査数	付き添い等のため、仕事を続けることが難しく、仕事を辞めた	付き添い等の際に仕事を休むことがあった（ある）	付き添い等のため、仕事を軽減してもらった（もらっている）	付き添い等のために退職したが、その後再就職した	その他	無回答
全体	159 100.0	10 6.3	117 73.6	41 25.8	3 1.9	12 7.5	2 1.3
正規の職員・従業員（公務員除く）	63 100.0	3 4.8	50 79.4	14 22.2	1 1.6	4 6.3	0 0.0
正規職員（公務員）	5 100.0	0 0.0	4 80.0	2 40.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0
パート・アルバイト	46 100.0	3 6.5	34 73.9	13 28.3	0 0.0	3 6.5	0 0.0
派遣社員	3 100.0	0 0.0	3 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
契約社員・嘱託	9 100.0	2 22.2	7 77.8	3 33.3	1 11.1	0 0.0	0 0.0
会社・団体等の役員	9 100.0	0 0.0	6 66.7	3 33.3	0 0.0	1 11.1	1 11.1
自営業	21 100.0	2 9.5	12 57.1	6 28.6	0 0.0	2 9.5	1 4.8
その他	3 100.0	0 0.0	1 33.3	0 0.0	0 0.0	2 66.7	0 0.0

家族が罹患したことにより「仕事への影響があった」と回答した159人の具体的な影響内容を、会社の正規職員数別にみると、「付き添い等のため、仕事を軽減してもらった（もらっている）」と回答した者の割合は「100～299人」で50.0%、「付き添い等のため、仕事を続けることが難しく、仕事を辞めた」と回答した者の割合は「50～99人」で11.1%と、他と比較して高かった。

ただし、「付き添い等のため、仕事を続けることが難しく、仕事を辞めた」は調査数が少ない点に留意する必要がある。

図表 192 家族が罹患したことによる仕事への影響の内容（複数回答）【働いていた会社の正規職員数別】

上段：調査数（件）
下段：割合（%）

	調査数	付き添い等のため、仕事を続けることが難しく、仕事を辞めた	付き添い等の際に仕事を休むことがあった（ある）	付き添い等のため、仕事を軽減してもらった（もらっている）	付き添い等のために退職したが、その後再就職した	その他	無回答
全体	159 100.0	10 6.3	117 73.6	41 25.8	3 1.9	12 7.5	2 1.3
1～29人	59 100.0	3 5.1	41 69.5	15 25.4	1 1.7	6 10.2	1 1.7
30～49人	17 100.0	0 0.0	14 82.4	4 23.5	0 0.0	1 5.9	0 0.0
50～99人	9 100.0	1 11.1	8 88.9	3 33.3	0 0.0	1 11.1	0 0.0
100～299人	12 100.0	1 8.3	8 66.7	6 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
300人以上	53 100.0	3 5.7	42 79.2	13 24.5	2 3.8	2 3.8	0 0.0

家族が罹患したことにより「仕事への影響があった」と回答した159人の具体的な影響内容を、現在の治療状況別にみると、「付き添い等のため、仕事を続けることが難しく、仕事を辞めた」と回答した者の割合は、「痛みなどの苦痛を抑えることを目的とした治療」の場合で20.0%と最も多く、次いで「延命(がんの勢いを抑え長生きすること)を目的とした治療」の場合で12.5%であった。

ただし、「付き添い等のため、仕事を続けることが難しく、仕事を辞めた」は調査数が少ない点に留意する必要がある。

図表 193 家族が罹患したことによる仕事への影響の内容(複数回答)【現在の治療状況別】

上段：調査数(件)
下段：割合(%)

	調査数	付き添い等のため、仕事を続けることが難しく、仕事を辞めた	付き添い等の際に仕事を休むことがあった(ある)	付き添い等のため、仕事を軽減してもらった(もらっている)	付き添い等のために退職したが、その後再就職した	その他	無回答
全体	159 100.0	10 6.3	117 73.6	41 25.8	3 1.9	12 7.5	2 1.3
完治(治しきることを目的とした治療)	67 100.0	0 0.0	54 80.6	21 31.3	0 0.0	3 4.5	1 1.5
延命(がんの勢いを抑え長生きすることを目的とした治療)	56 100.0	7 12.5	37 66.1	16 28.6	3 5.4	4 7.1	1 1.8
痛みなどの苦痛を抑えることを目的とした治療	5 100.0	1 20.0	3 60.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
経過観察・定期検査	27 100.0	2 7.4	21 77.8	2 7.4	0 0.0	4 14.8	0 0.0
分からない/考えたくない	3 100.0	0 0.0	2 66.7	1 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0
その他	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

3) 罹患した家族以外に介護している家族の有無、自身以外に患者を介護できる家族の有無

《問35》問33で「9. 無職であり、その後、就職した」「10. 無職であり、その後も就職していない」以外を選んだ方に伺います。

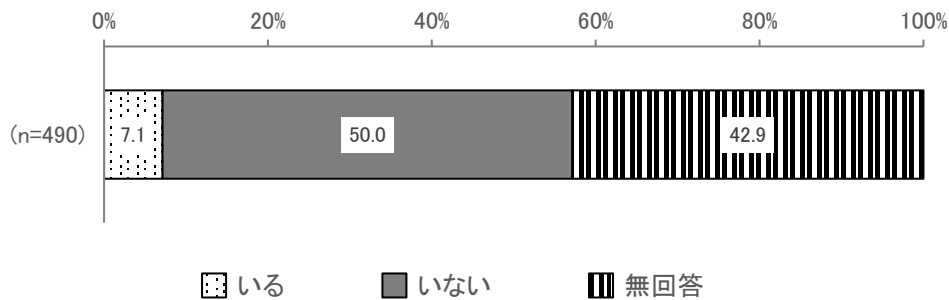
(1) 患者様のほかに、あなたが介護されているご家族はいますか。(○は1つ)

(2) また、あなたの他に患者様を介護できる家族はいらっしゃいますか。(○は1つ)

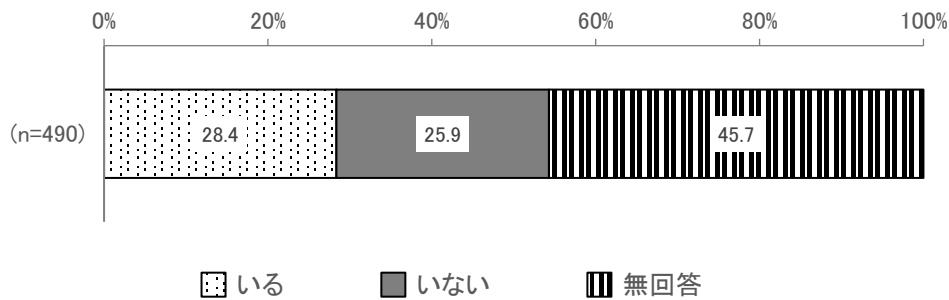
家族ががんと診断されたときに就労していた490人に、罹患した家族以外に介護している家族の有無を確認したところ、「いない」と回答した者が50.0%、「いる」と回答した者が7.1%であった。

回答者自身以外にがんに罹患した家族を介護できる家族の有無については、「いる」と回答した者が28.4%、「いない」と回答した者が25.9%であった。

図表 194 がん罹患した家族以外に介護している家族の有無



図表 195 自身以外に患者を介護できる家族の有無



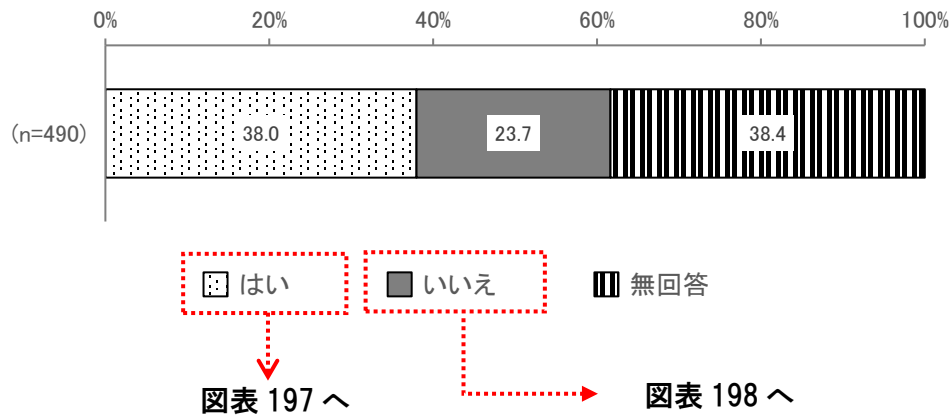
4) 職場等への相談・報告

《問36》問33で「9. 無職であり、その後、就職した」「10. 無職であり、その後も就職していない」以外を選んだ方に伺います。

あなたは、ご家族ががんに罹患したことについて、職場等に相談・報告しましたか。(○は1つ)

家族ががんと診断されたときに就労していた490人について、家族が罹患したことを職場等に相談・報告をしたか確認したところ、「相談・報告した」と回答した者が38.0%、「相談・報告をしなかった」と回答した者が23.7%であった。

図表 196 家族ががんに罹患したことについて、職場等に相談・報告をしたか



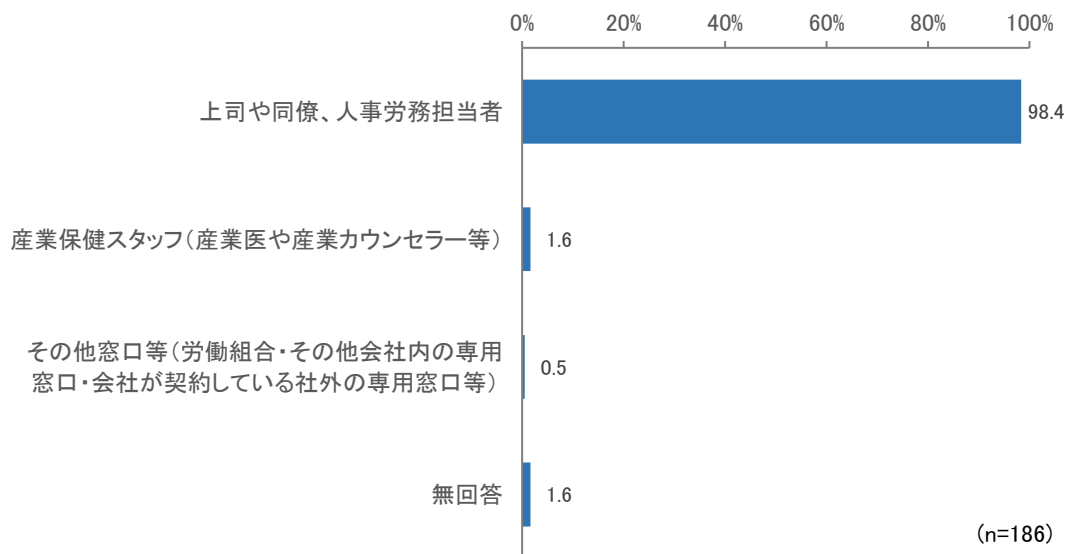
5) 相談・報告をした職場の相手

《問37》問36で「1.はい」を選んだ方に伺います。

職場の誰に又はどこに相談や報告をしましたか。(〇はいくつでも)

職場等に「相談・報告をした」と回答した186人の、相談や報告をした相手先としては、「上司や同僚、人事労務担当者」が98.4%と、ほとんどが職場の人間に相談・報告をしたと回答した。

図表 197 相談、報告をした相手（複数回答）



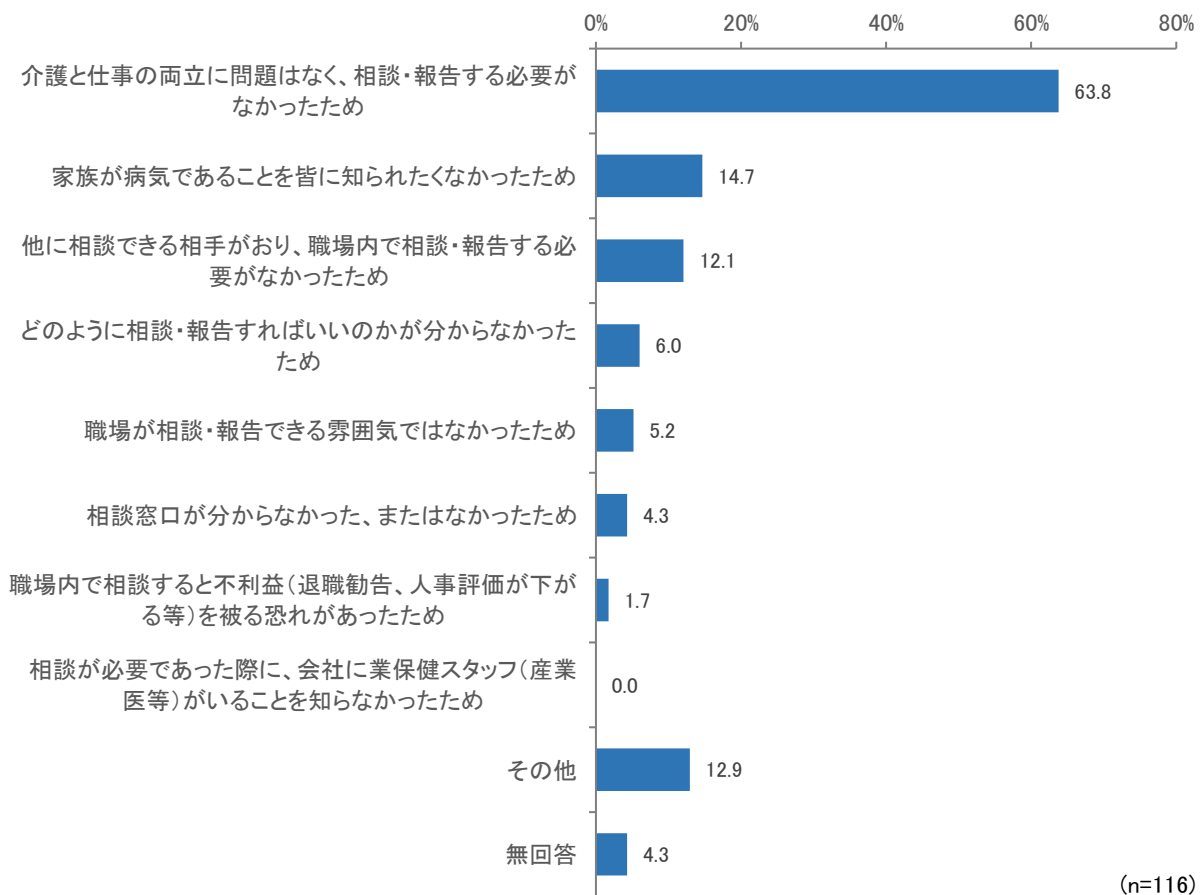
6) 職場等へ相談・報告をしなかった理由

《問38》問36で「2. いいえ」を選んだ方に伺います。

相談・報告しなかったのはなぜですか。(〇は3つまで)

職場等に「相談・報告をしなかった」と回答した116人の、相談や報告をしなかった理由としては、「介護と仕事の両立に問題はなく、相談・報告する必要がなかったため」が63.8%で最も多く、次いで「家族が病気であることを皆に知られたくなかったため」が14.7%、「他に相談できる相手があり、職場内で相談・報告する必要がなかったため」が12.1%であった。

図表 198 相談・報告をしなかった理由（複数回答：3つまで）



「その他」の具体的内容

- 症状が軽く影響がほぼなかった為
- 個人事業主のため
- 家族経営の会社だから 等

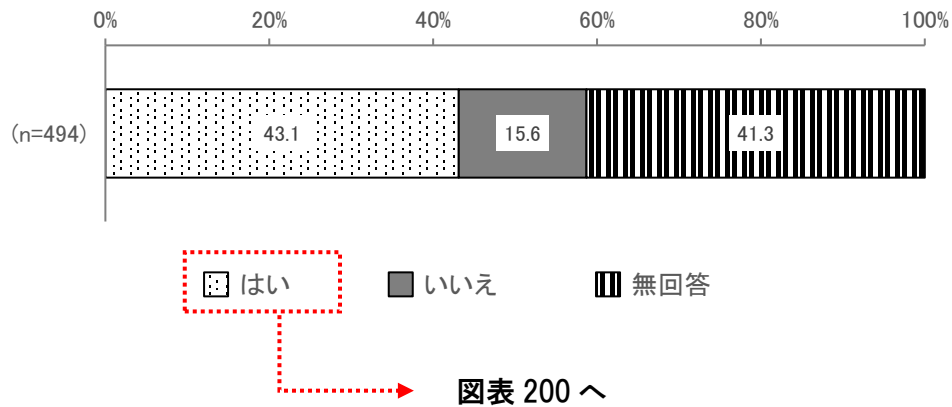
7) 働いていた職場では介護休暇を取得しやすかったか

《問39》問33で「10. 無職であり、その後も就職していない」以外を選んだ場合のみお答え下さい。

あなたが働いていた/いる職場では、介護等で休暇を取得しやすかった/しやすいですか。(○は1つ)

家族ががんと診断されたときに就労していた494人の、働いていた職場における介護休暇の取得しやすさについては、「取得しやすかった」と回答した者が43.1%、「取得しにくかった」と回答した者が15.6%であった。

図表 199 働いていた職場では介護休暇を取得しやすかったか



8) 介護休暇を取得しやすかった理由

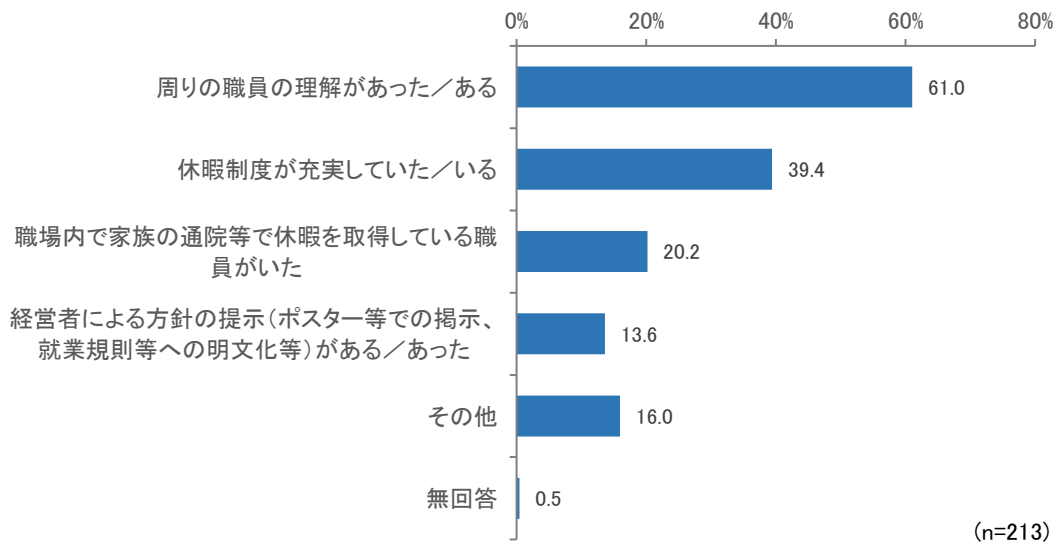
《問40》問39で「1. はい」を選んだ方に伺います。

その理由はどのようなものですか。(〇はいくつでも)

働いていた職場における介護休暇の取得しやすさについて、「取得しやすかった」と回答した213人の、その理由については、「周りの職員の理解があった／ある」が61.0%で最も多く、次いで「休暇制度が充実していた／いる」が39.4%、「職場内で家族の通院等で休暇を取得している職員がいた」が20.2%であった。

その他の意見としては、「自営業である」「パートなので時間に融通が利く」「自身で働き方を調整できる」などの意見があった。

図表 200 介護休暇を取得しやすかった理由（複数回答）



9) 介護と仕事の両立で困難であったこと

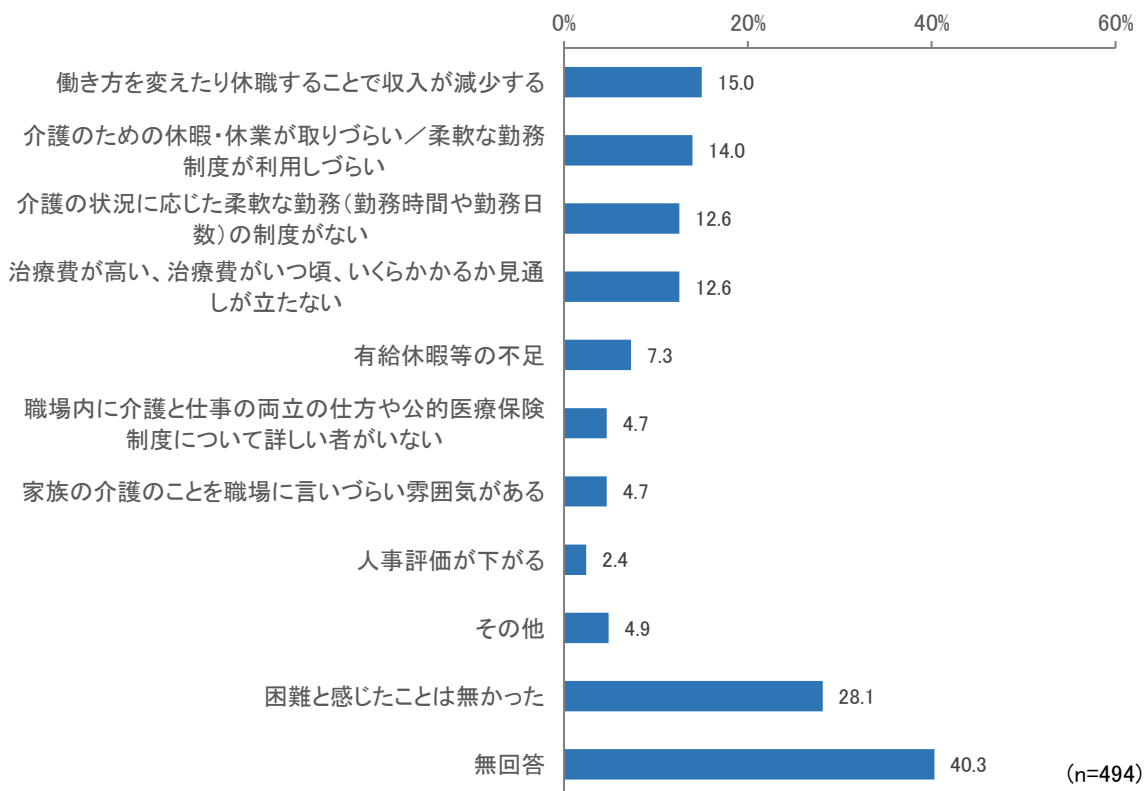
《問41》問33で「10. 無職であり、その後も就職していない」以外を選んだ場合のみお答え下さい。

がんに罹患した家族の介護等と仕事を両立するにあたり、で困難であったことは何ですか。特に困難だった選択肢から順に3つまで、「順位」欄に1→2→3と番号を記載してください。

家族ががんと診断されたときに就労していた、または当時は無職だったが現在は就労している494人に、介護と仕事の両立で困難であったことを順に1位から3位まで3つ尋ねたところ、「働き方を変えたり休職することで収入が減少する」が15.0%で最も多く、次いで「介護のための休暇・休業が取りづらい／柔軟な勤務制度が利用しづらい」が14.0%であった。

なお、「困難と感じたことは無かった」と回答した者は28.1%であった。

図表 201 介護と仕事の両立で困難であったこと（複数回答：3つまで）

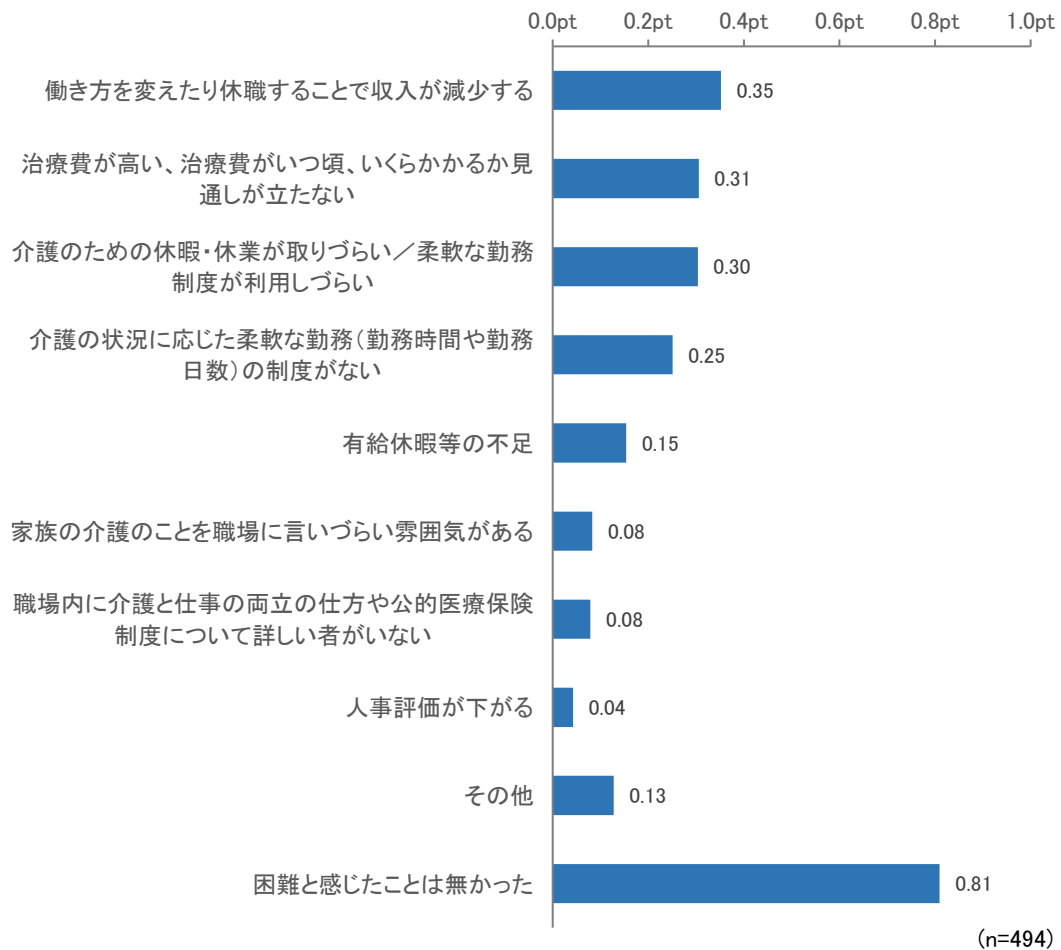


「その他」の具体的内容

- 子育て、仕事、介護の両立が精神的、体力的にきつかった
- 仕事のストレスと介護で心と体がキツイ
- 職場が人員不足で有休が取りづらい状況にある 等

介護と仕事の両立で困難であったことを重み付けしてみると、「働き方を変えたり退職することで収入が減少する」が 0.35pt で最も多く、次いで「治療費が高い、治療費がいつ頃、いくらかかるか見通しが立たない」が 0.31pt、「介護のための休暇・休業が取りづらい／柔軟な勤務制度が利用しづらい」が 0.30pt であった。

図表 202 介護と仕事の両立で困難であったこと（重み付け）



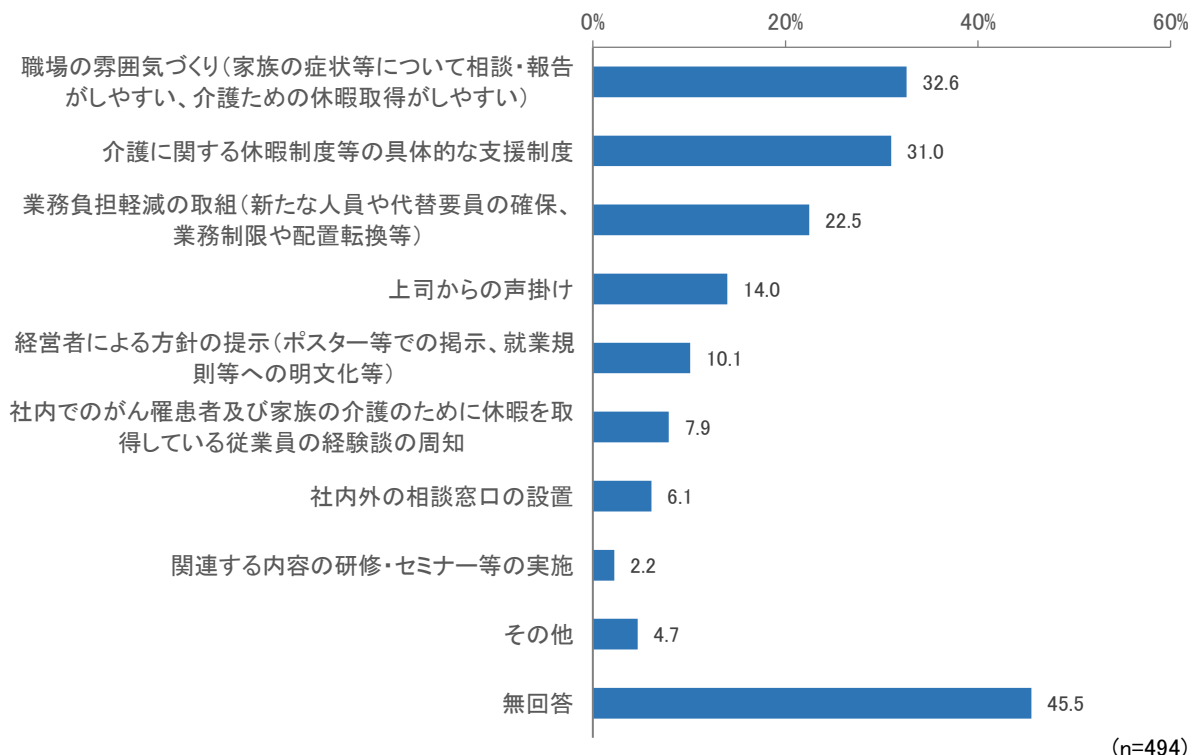
10) 介護と仕事を継続するために必要な職場の支援

《問42》問33で「10. 無職であり、その後も就職していない」以外を選んだ場合のみお答え下さい。

がんに罹患した家族の介護等と仕事を継続する（離職を避ける）ためには、職場側からどのような支援が必要であると思いますか。特に必要だった選択肢から順に3つまで、「順位」欄に1→2→3と番号を記載してください。

家族ががんと診断されたときに就労していた、または当時は無職だったが現在は就労している494人に、介護と仕事を継続するために必要な職場の支援を順に1位から3位まで3つ尋ねたところ、「職場の雰囲気づくり（家族の症状等について相談・報告がしやすい、介護のための休暇取得がしやすい）」が32.6%で最も多く、次いで「介護に関する休暇制度等の具体的な支援制度」が31.0%、「業務負担軽減の取組（新たな人員や代替要員の確保、業務制限や配置転換等）」が22.5%であった。

図表 203 介護と仕事を継続するために必要な職場の支援（複数回答：3つまで）

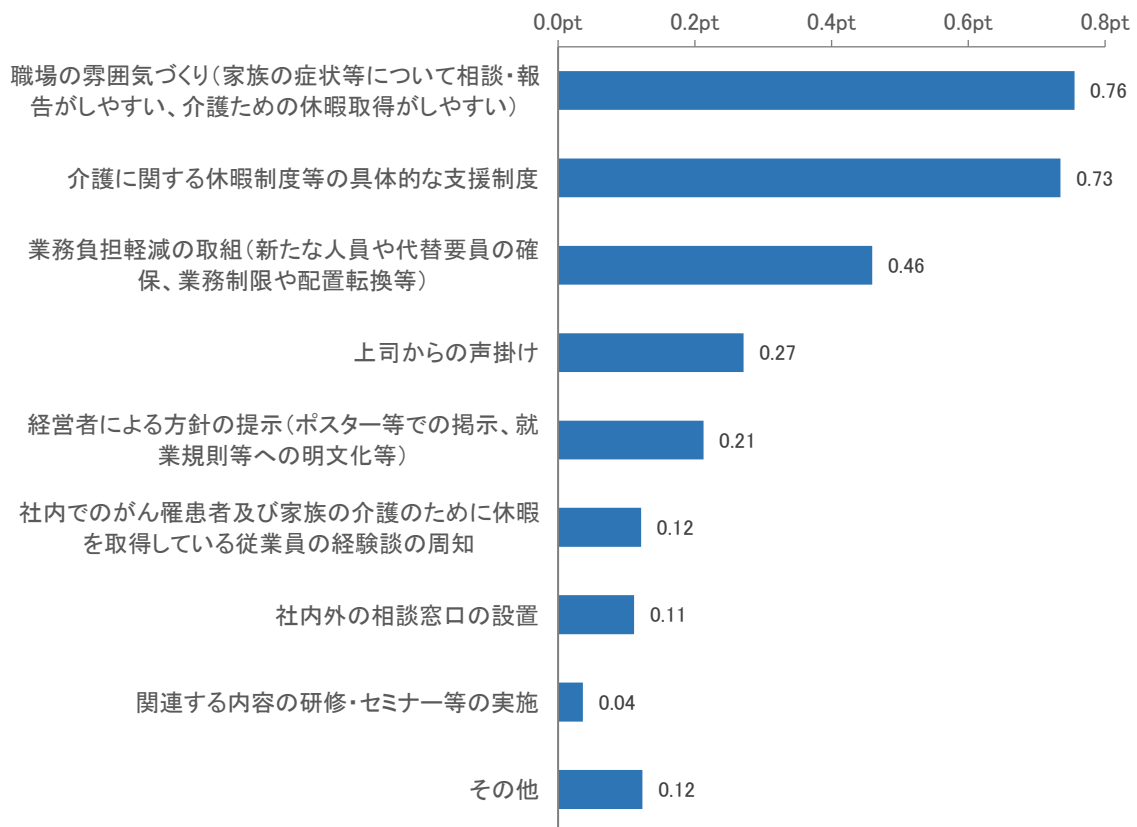


「その他」の具体的な内容

- 安定した雇用形態であること
- 法的な制度化
- 職場内の人間が理解してくれること 等

介護と仕事を継続するために必要な職場の支援を重み付けしてみると、「職場の雰囲気づくり（家族の症状等について相談・報告がしやすい、介護のための休暇取得がしやすい）」が0.76ptで最も多く、次いで「介護に関する休暇制度等の具体的な支援制度」が0.73pt、「業務負担軽減の取組（新たな人員や代替要員の確保、業務制限や配置転換等）」が0.46ptであった。

図表 204 介護と仕事を継続するために必要な職場の支援（重み付け）



(n=494)

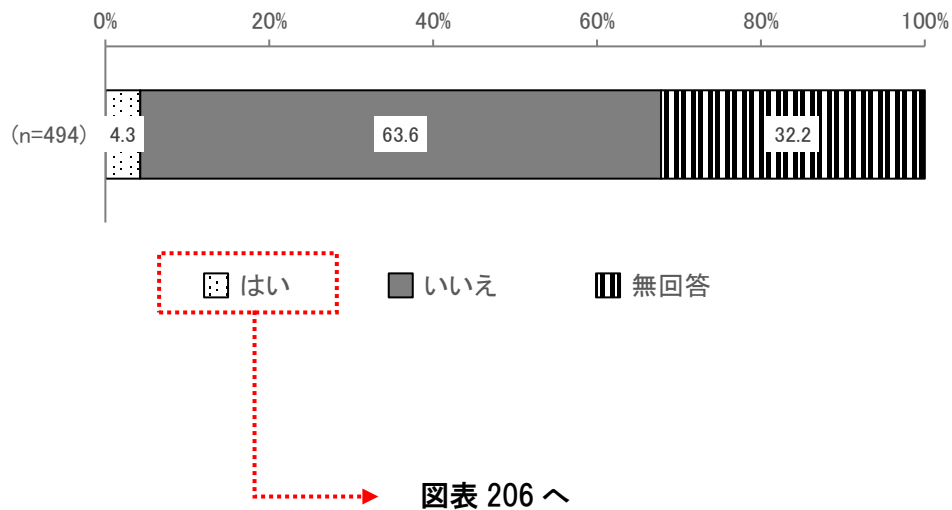
11) 介護と仕事を両立するために医療機関へ相談をしたか

《問43》問33で「10. 無職であり、その後も就職していない」以外を選んだ場合のみお答え下さい。

がんに罹患した家族の介護等と仕事を両立するために、医療機関に対して相談しましたか。(○は1つ)

家族ががんと診断されたときに就労していた、または当時は無職だったが現在は就労している 494 人の、介護と仕事を両立するために医療機関へ相談をしたかについては、「相談した」と回答した者が 4.3%、「相談しなかった」と回答した者が 63.6%であった。

図表 205 介護と仕事を両立するために医療機関へ相談をしたか



12) 医療機関における相談先

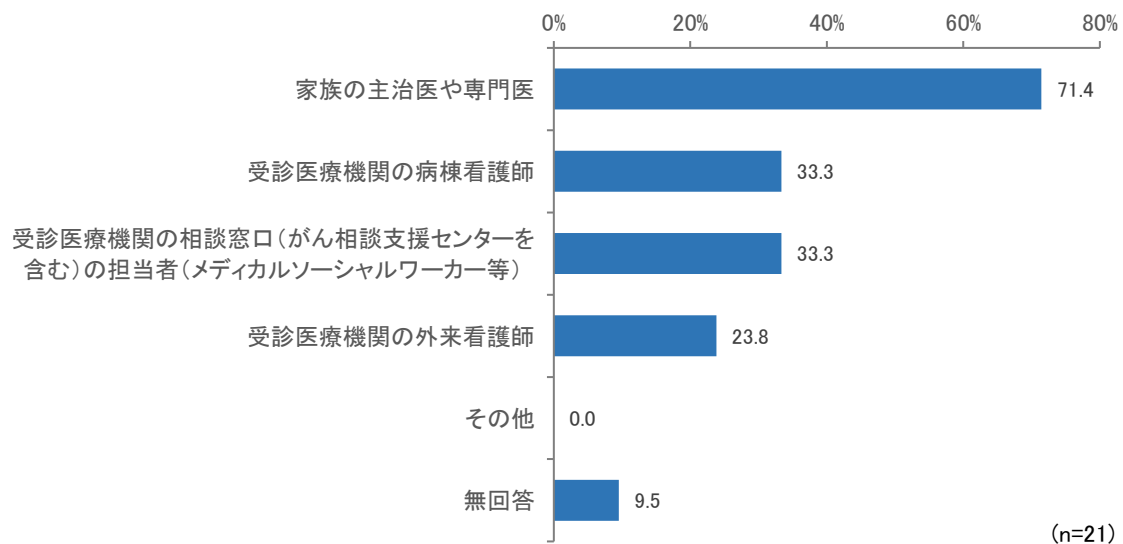
《問44》問43で「1. はい」を選んだ方に伺います。

誰に相談しましたか。(〇はいくつでも)

介護と仕事を両立するために医療機関へ相談をしたかについて、「相談した」と回答した21人の、介護と仕事を両立するために相談した相手については、「家族の主治医や専門医」が71.4%で最も多く、次いで「受診医療機関の病棟看護師」と「受診医療機関の相談窓口(がん相談支援センターを含む)の担当者(メディカルソーシャルワーカー等)」がともに33.3%であった。

ただし、回答数が少ない点に留意する必要がある。

図表 206 医療機関における相談先 (複数回答)



13) 相談した際に受けられた情報や支援

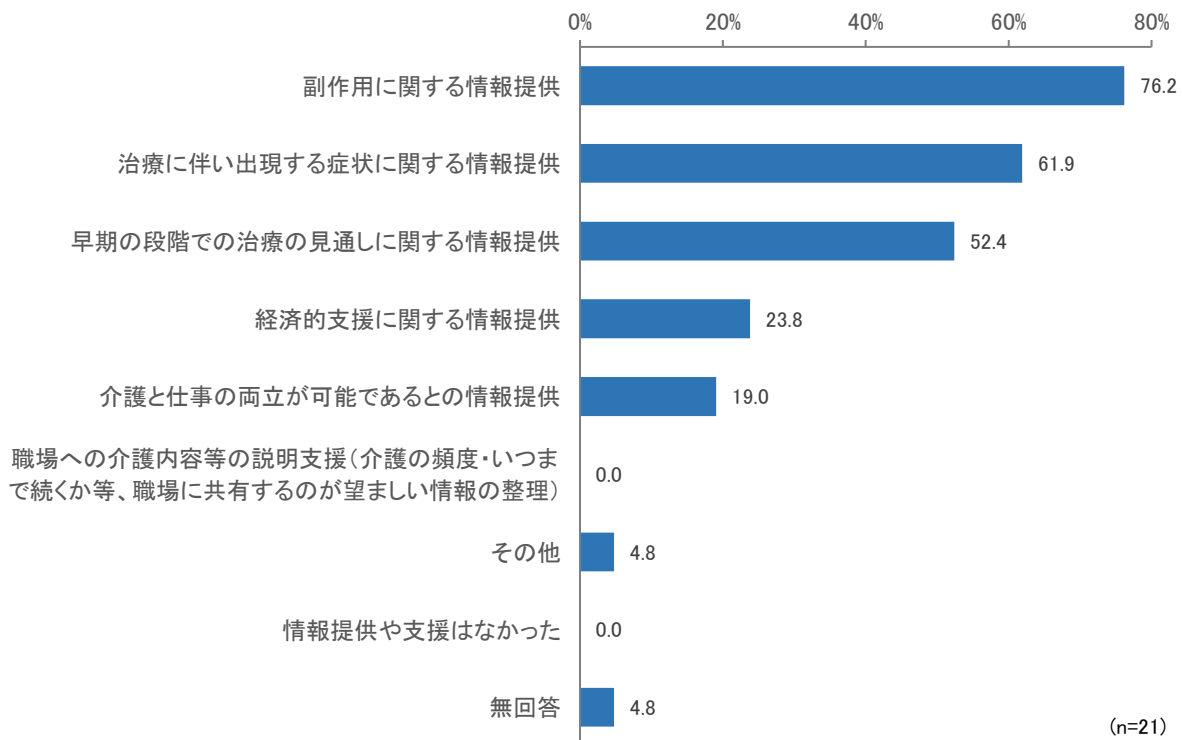
《問45》問43で「1. はい」を選んだ方に伺います。

相談した際、どのような情報や支援を受けましたか。(〇はいくつでも)

介護と仕事を両立するために医療機関へ相談をしたかについて、「相談した」と回答した21人の、相談した際に受けられた情報や支援については、「副作用に関する情報提供」が76.2%で最も多く、次いで「治療に伴い出現する症状に関する情報提供」が61.9%、「早期の段階での治療の見通しに関する情報提供」が52.4%であった。

ただし、回答数が少ない点に留意する必要がある。

図表 207 相談した際に受けられた情報や支援（複数回答）



「その他」の具体的内容

- 治療時間について融通して頂いた

14) 介護と仕事の両立において医療機関側から必要だと思われる支援

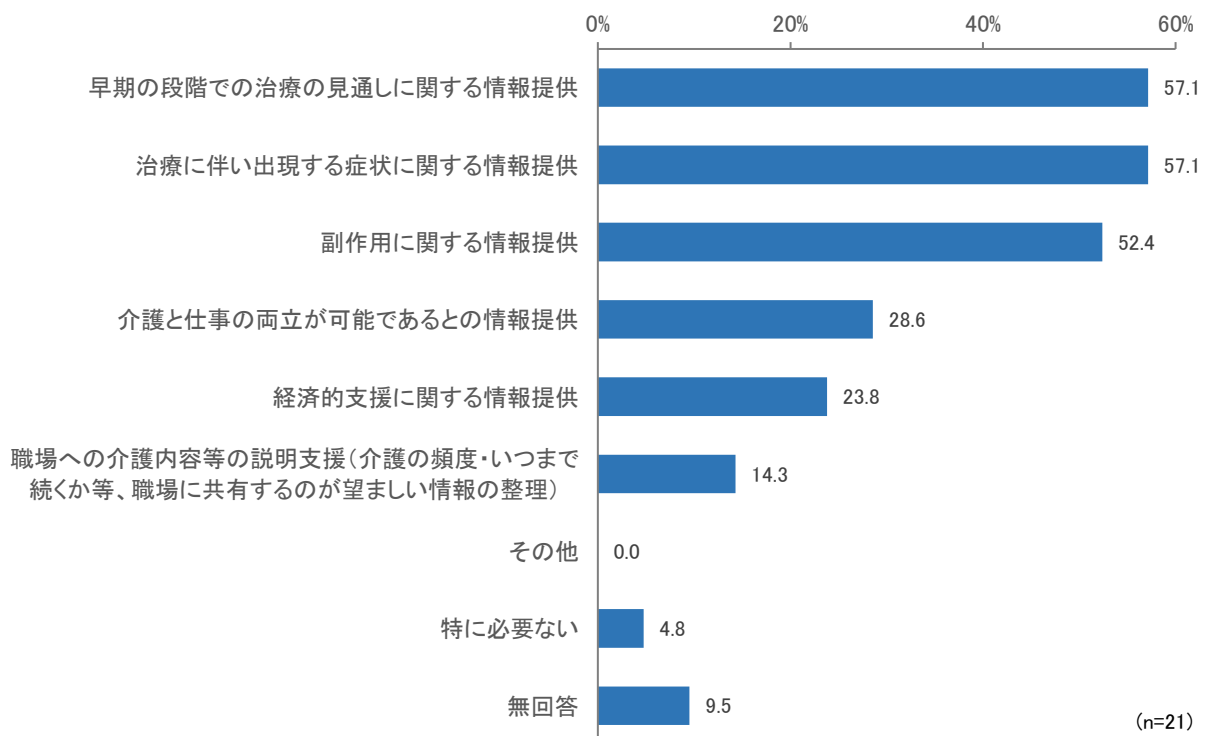
《問46》問43で「1. はい」を選んだ方に伺います。

がんに罹患した家族の介護等と仕事を両立するためには、医療機関側からどのような支援が必要であると思いますか。特に必要であると思う選択肢から順に3つまで、「順位」欄に1→2→3と番号を記載してください。

介護と仕事を両立するために医療機関へ相談をしたかについて、「相談した」と回答した21人に、介護と仕事の両立において医療機関側から必要だと思われる支援について順に1位から3位まで3つ尋ねたところ、「早期の段階での治療の見通しに関する情報提供」と「治療に伴い出現する症状に関する情報提供」が57.1%で最も多く、次いで「副作用に関する情報提供」が52.4%であった。なお、「特に必要ない」と回答した者は4.8%であった。

ただし、回答数が少ない点に留意する必要がある。

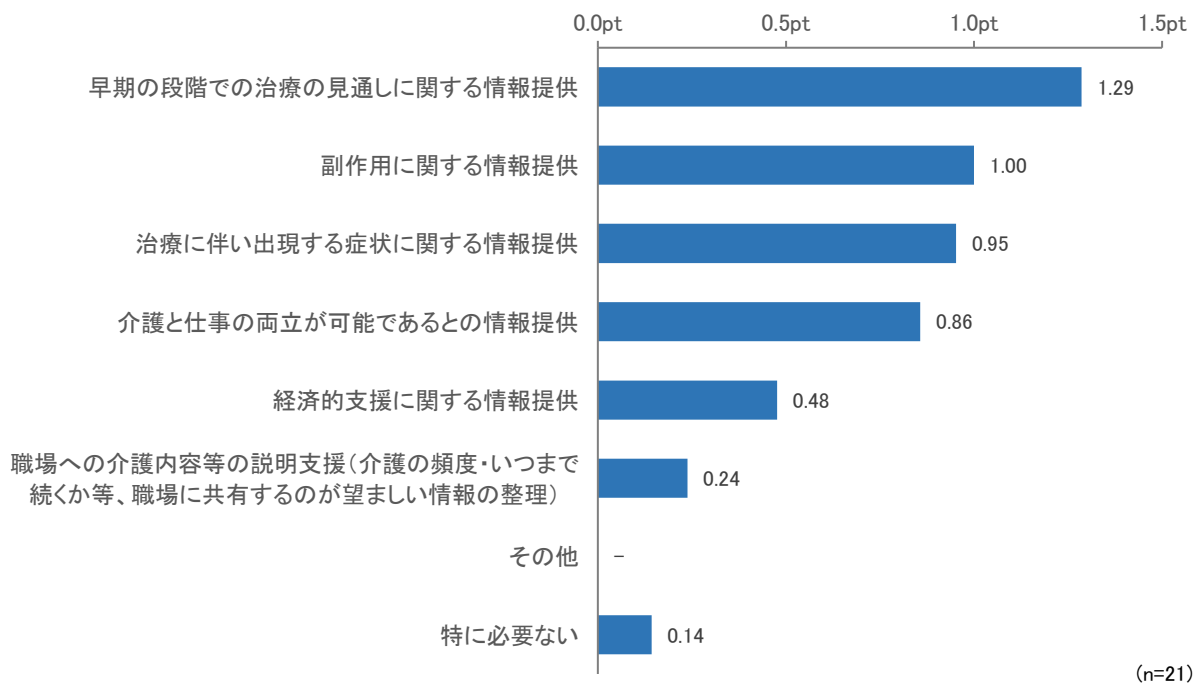
図表 208 介護と仕事の両立において医療機関側から必要だと思われる支援（複数回答）



介護と仕事の両立において医療機関側から必要だと思われる支援について重み付けしてみると、「早期の段階での治療の見通しに関する情報提供」が 1.29pt で最も多く、次いで「副作用に関する情報提供」が 1.00pt、「治療に伴い出現する症状に関する情報提供」が 0.95pt であった。

ただし、回答数が少ない点に留意する必要がある。

図表 209 介護と仕事の両立において医療機関側から必要だと思われる支援（重み付け）



15) 介護と就労の両立に関して、困っていること、対応が必要なこと

《問47》患者様の介護等と就労の両立に関して、困っていること、対応が必要なことなどがあれば、ご自由に記載してください。

介護と就労の両立で困っていることや対応が必要なことについて自由記載で尋ねたところ、「生活費や手術費等の経済的負担」「精神的負担」「休みをとれない」「身体的疲労」「収入の減少」等が挙げられた。

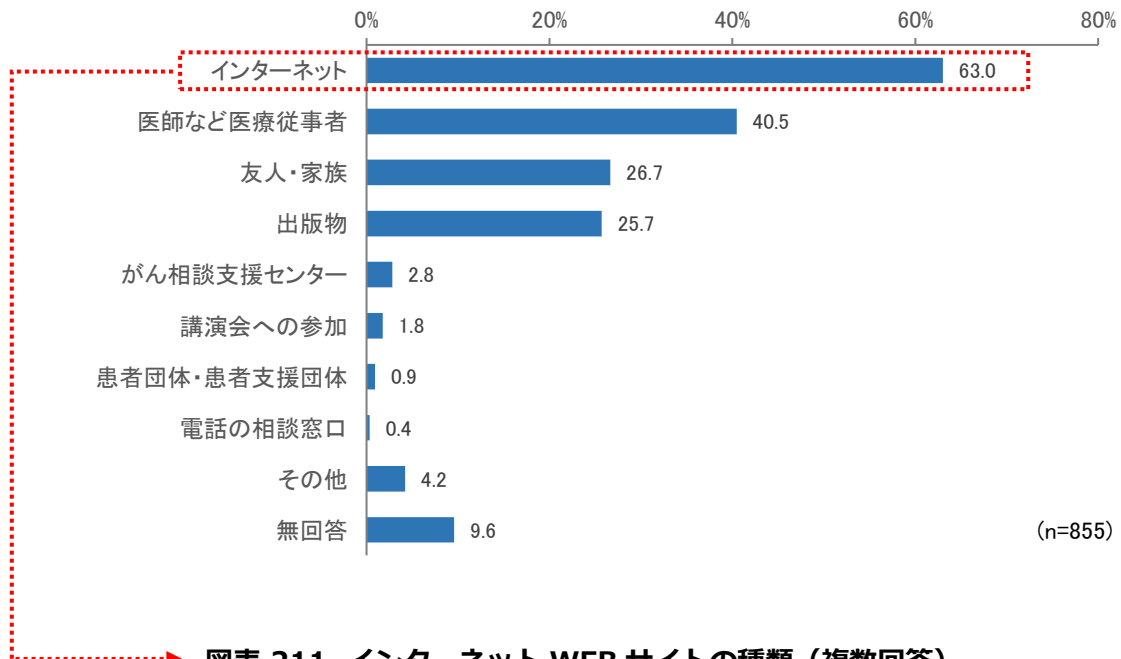
8. がんに関する情報について

1) がんに関する必要な情報の収集方法

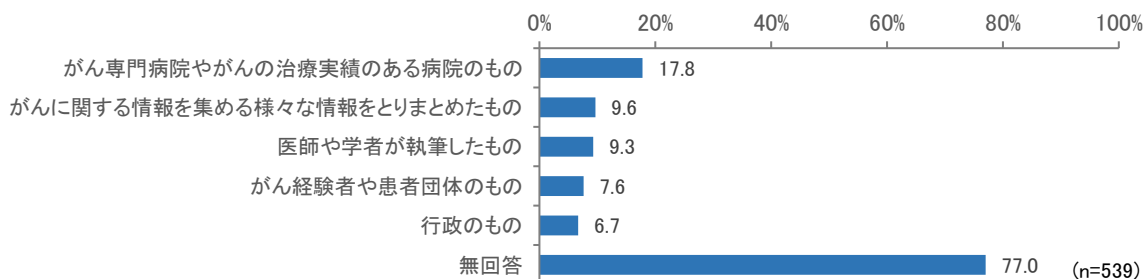
《問48》あなたは、がんに関する必要な情報を、どのような方法で収集していますか。(〇はいくつでも)

がんに関する必要な情報を収集する方法としては、「インターネット」が63.0%で最も多く、次いで「医師など医療従事者」が40.5%、「友人・家族」が26.7%、「出版物」が25.7%であった。「インターネット」の内訳としては、「がん専門病院やがんの治療実績のある病院のもの」が17.8%で最も多かった。

図表 210 がんに関する必要な情報の収集方法（複数回答）



図表 211 インターネット WEB サイトの種類（複数回答）

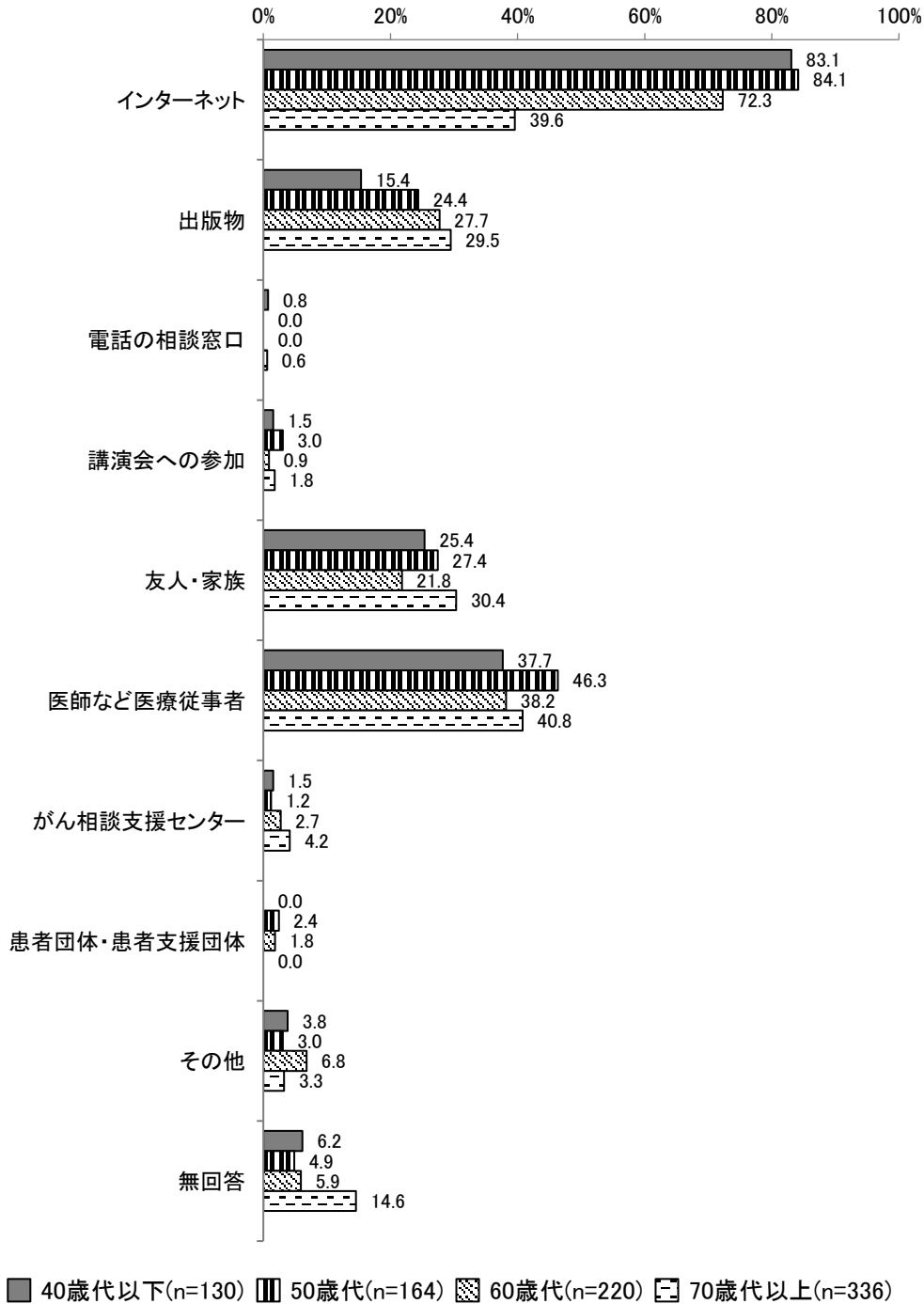


「その他」の具体的内容

- 本、新聞、テレビ、YouTube 等

年齢階級別にみると、年齢が低いほど「インターネット」の割合が高い傾向があり、「40歳代以下」「50歳代」では8割以上であった。

図表 212 がんに関する必要な情報の収集方法（複数回答）【年齢階級別】

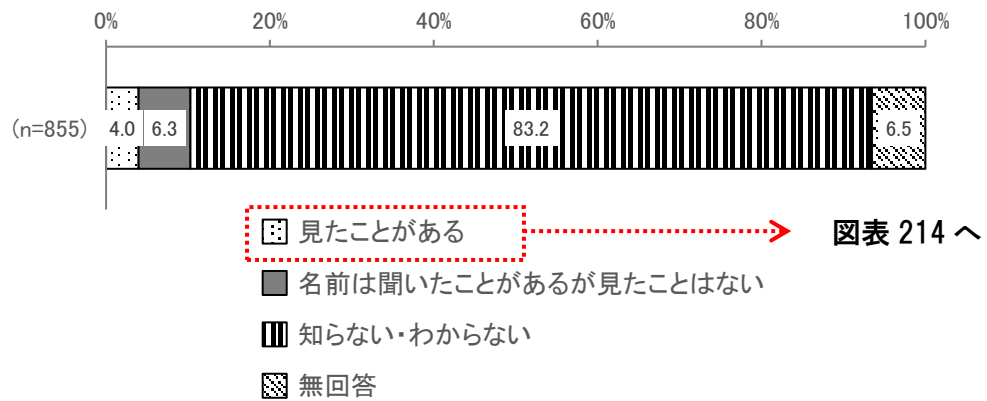


2) 「東京都がんポータルサイト」の認知度

《問49》東京都はがんに関する総合情報を掲載したホームページ「東京都がんポータルサイト」を開設しています。このポータルサイトを見たことはありますか。(〇は1つ)

東京都のホームページである「東京都がんポータルサイト」については、「知らない・わからない」と回答した者が83.2%と最も多く、「名前は聞いたことがあるが見たことはない」が6.3%、「見たことがある」は4.0%であった。

図表 213 「東京都がんポータルサイト」の認知度



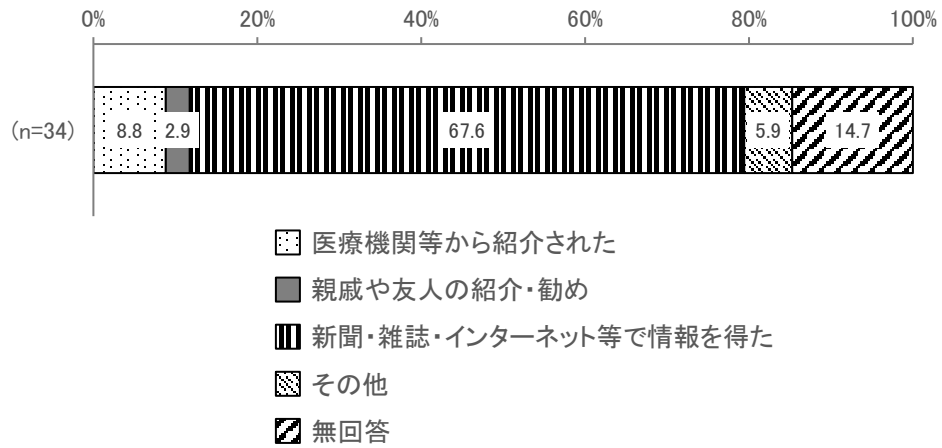
3) 「東京都がんポータルサイト」をどこで知ったか

《問50》問49で「1. 見たことがある」と回答した方に伺います。

「東京都がんポータルサイト」をどこで知りましたか。(〇は1つ)

東京都がんポータルサイトについて、「見たことがある」と回答した34人に、どこで知ったかを尋ねたところ、「新聞・雑誌・インターネット等で情報を得た」と回答した者が67.6%と最も多く、「医療機関等から紹介された」が8.8%、「親戚や友人の紹介・勧め」が2.9%であった。

図表 214 「東京都がんポータルサイト」をどこで知ったか



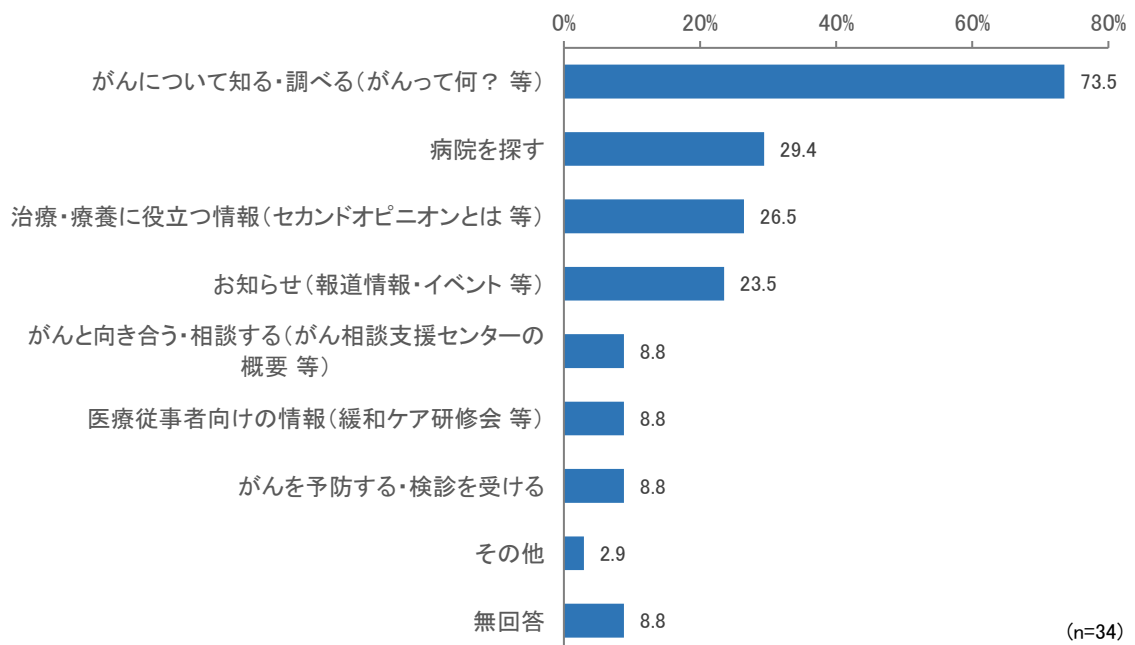
4) 「東京都がんポータルサイト」の閲覧したページ

《問51》問49で「1. 見たことがある」と回答した方に伺います。

どのページを閲覧されましたか。(〇はいくつでも)

東京都がんポータルサイトについて、「見たことがある」と回答した34人に、閲覧したページを尋ねたところ、「がんについて知る・調べる(がんって何? 等)」と回答した者が73.5%と最も多く、次いで「病院を探す」が29.4%、「治療・療養に役立つ情報(セカンドオピニオンとは 等)」が26.5であった。

図表 215 「東京都がんポータルサイト」の閲覧したページ (複数回答)



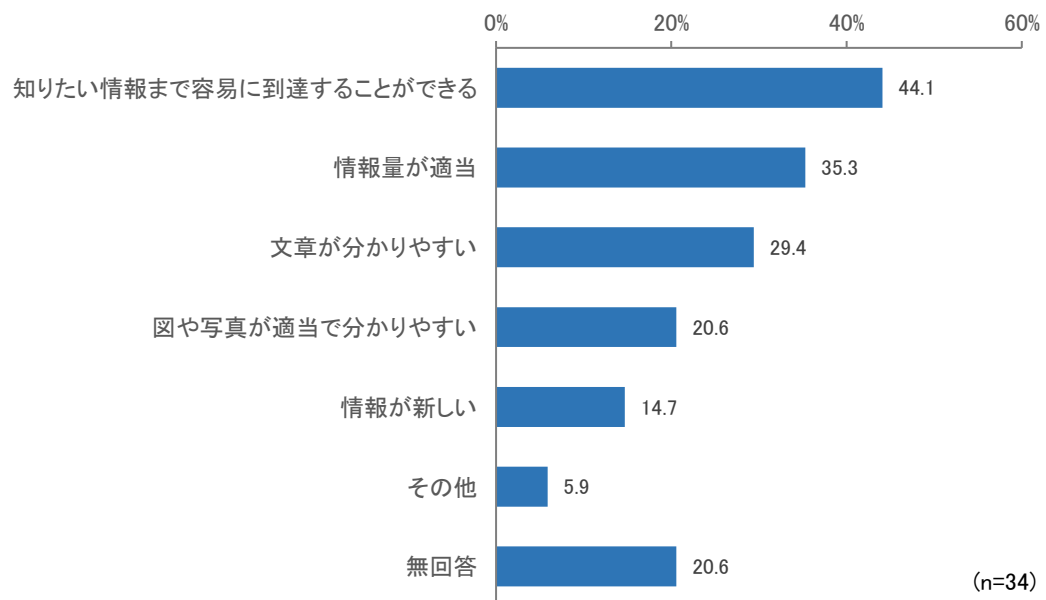
5) 「東京都がんポータルサイト」の良かったと感じた点

《問52》問49で「1. 見たことがある」と回答した方に伺います。

どの点が良いと感じましたか。(〇はいくつでも)

東京都がんポータルサイトについて、「見たことがある」と回答した34人に、良かったと感じた点を尋ねたところ、「知りたい情報まで容易に到達することができる」と回答した者が44.1%と最も多く、「情報量が適当」が35.3%、「文章が分かりやすい」が29.4%であった。

図表 216 「東京都がんポータルサイト」の良かったと感じた点（複数回答）



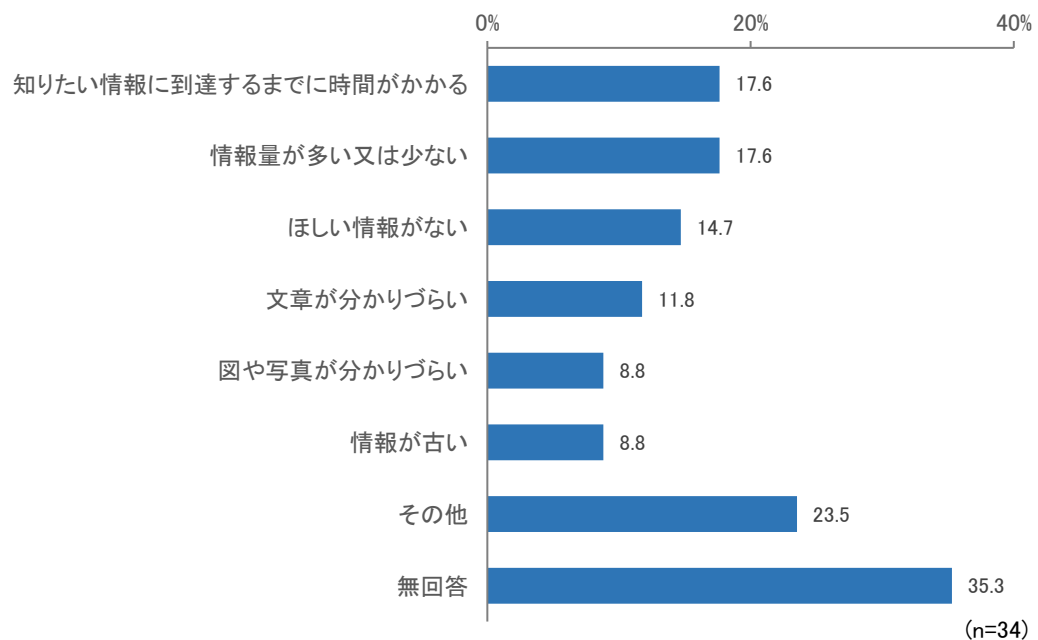
6) 「東京都がんポータルサイト」の悪かったと感じた点

《問53》問49で「1. 見たことがある」と回答した方に伺います。

どの点が悪いと感じましたか。(〇はいくつでも)

東京都がんポータルサイトについて、「見たことがある」と回答した34人に、悪かったと感じた点を尋ねたところ、「知りたい情報に到達するまでに時間がかかる」と「情報量が多い又は少ない」を回答した者が17.6%と最も多く、次いで「ほしい情報がない」が14.7%、「文章が分かりづらい」が11.8%であった。

図表 217 「東京都がんポータルサイト」の悪かったと感じた点



「ほしい情報がない」の具体的内容

- 個々に病状が異なるため情報不足の気がする
- 必ずしも最新の情報ではない 等

「その他」の具体的内容

- 字が多い
- 情報の種類や順序にバラつきがある 等

7) がんに関する情報として、どのようなことを知りたいか

《問54》あなたは、がんに関する情報として、どのようなことが知りたいですか。
ご自由に記載してください。

がんに関して知りたい情報について自由記載で尋ねたところ、「新薬、治療法、治験の最新情報」「抗がん剤、放射線治療などの副作用」「再発、転移、後遺症」「複数の治療法とその効果の生存率」「緩和ケアとその期間」等が挙げられた。

9. 最後に

1) 家族が療養生活が続ける中で、不安や困っていること、疑問に思っていること

《問55》患者様が療養生活が続けられる中で、不安や困っていること、疑問に思っていることなどがありましたら、ご自由に記載してください。

家族が療養生活が続ける中で、不安や困っていること、疑問に思っていることとして、次のような内容について意見が挙げられた。

治療や検査、副作用、後遺症等	<ul style="list-style-type: none"> 単調な毎日でフレイル症候群の心配 薬の副作用で爪周囲炎が発現して辛そうである 治療の効果がなかった場合、どうなるか不安 合併症の治療が出来ず、がんよりそっちの方が辛そうだ 抗がん剤の効果と副反応について むくみ等への適切な対応方法 放射線治療後、咳がひどいのでその対応 その他の病気に掛った場合の薬を使用してよいか不明 タルセバの副作用で使えなくなる不安があるが、その後の対応は医師に頼るしかない 患者の後遺症（手、足のしびれ）なおるのかどうか心配 後遺症の対応。コロナ感染した時の対応 等
予後、再発や転移	<ul style="list-style-type: none"> 再発や転移による発症の可能性 進行した場合の対応が最も不安 等
終末期医療・緩和ケア	<ul style="list-style-type: none"> 緩和ケアについて、主治医が積極的に使わないので、患者から言わなくてはならず、使いづらい 等
看護・介護、付き添い等	<ul style="list-style-type: none"> 私の精神状態が最後まで正常に保てるか不安 配偶者である私が入院して、不在の場合のサポート 今後自宅療養になった時に対処出来るか不安 家族がどうサポートしたらよいのか、分からない 自宅治療にあたる一時退院時のサポートがほしい 老々介護になる点がこれから不安 通院の際の車での送り、迎えが負担 容態が急変した時の対処 等
経済的な問題	<ul style="list-style-type: none"> お金〈治療費〉生活費の確保 治療費や通院に際しての交通費などが高額で不安 パートが休業になり給料が減り困った 長期になる程、精神的、肉体的、経済的不安が増大していく 年金生活者で、治療費の増で家計の圧迫が不安 等

情報収集・相談支援	<ul style="list-style-type: none"> • 何かあった時に病院にすぐ行く事が出来ると安心 • 不安や疑問があった時、医師が適切な説明をして頂きたい • 症状があっても気軽に相談できない • インターネット等の不正確または裏付けのない記事 等
がんへの理解	<ul style="list-style-type: none"> • がんは恐ろしい病気というイメージをまず壊すべき 等
医療者、医療機関	<ul style="list-style-type: none"> • 在宅での看とり希望の為、主治医と相談したが、良い返事はもらえず、つきはなされた印象を持った • コロナのこともあって、何かあればすぐにかかっている医師の方と連絡がとれる状態であることは大切でした • 治療方法の選択肢もないまま治療に進み、ガンを宣告され、その時の医師の末期がん宣告の言葉にショックを受けた • 病院の混雑と、待ち時間の長さに、毎回本人が疲れてしまう。家族がいない人はもっと大変だと思う 等

2) 医療従事者や行政に対する、がん予防やがん検診についての意見や希望

《問56》医療従事者や行政に対し、がん予防やがん検診についてのご意見やご希望などがありましたら、ご自由に記載してください。

医療従事者や行政に対する、がん予防やがん検診についての意見や希望として、次のような内容について意見が挙げられた。

がん予防	<ul style="list-style-type: none"> • 予防についてのお知らせの中味が詳しく欲しい • がんの予防について医療教育のようなことをしてほしい
がん検診の費用	<ul style="list-style-type: none"> • 婦人科検診を毎年公費で行ってほしい • がん検診は高いので、受けやすい様な仕組みにしてほしい • 検診等についての費用負担の軽減をさらに計って欲しい 等
がん検診の実施体制	<ul style="list-style-type: none"> • かかりつけ医から定期的な検査実施を遂行してもらいたい
がん検診の検診項目、対象年齢	<ul style="list-style-type: none"> • がん患者が少しずつ増加してくる50代、又は40代に対して、健康診断を受けた際にがん検診も受けるようにしてほしい • 40才からは成人病健診や人間ドックを受けるべきだと思う 等
がん検診の精度	<ul style="list-style-type: none"> • 誤診、見落としが無い事を望む
結果説明	<ul style="list-style-type: none"> • 診察の時にゆっくり質問や相談できるようにしてほしい • 医師のキャラクターもいろいろだが、患者に寄り添って話を聞いてほしい
がん検診を受けやすくするための環境整備	<ul style="list-style-type: none"> • 夜間開催を増やしてほしい • 検診については少しハードルが高い様に感じるので、もう少し身近で手軽になるといいと思う • がん検診を受けたいが、きっかけがないし、休みが少なく受けれない • 定期的な検査を受けやすくしてほしい 等

3) 医療従事者や行政に対し、がん医療についての意見や希望

《問57》医療従事者や行政に対し、がん医療についてご意見やご希望などがありましたら、ご自由に記載してください。

医療従事者や行政に対する、がん医療についての意見や希望として、次のような内容について意見が挙げられた。

治療や副作用について	<ul style="list-style-type: none"> ● ガンが見つかり、手術までの期間が長く感じた。もう少し早くとり除きたい思いでした ● 最新の抗ガン剤と治療について詳しく知りたい 等
新たな治療法や新薬について	<ul style="list-style-type: none"> ● がんを早期発見出来る制度を確立して欲しい ● 新しい薬を作ってほしい ● がんが今よりももっと治る病気になるよう、治療や薬が早く出来ればと思う 等
経済的な問題	<ul style="list-style-type: none"> ● がんの状態だけでは、介護保険の適用が受けられないので、保険適用が自動的に受けられるようにしていただきたい ● 高額医療の負担の更なる軽減を求めたい。年金受給者は物価高騰で生活が厳しくなっている ● 行政は高額医療費の事前申請をなくしてほしい。急に入院、急に手術となる事もあるのになんとかならないのかと思う。血液がん検査に対する保険適用 等
患者・家族への説明	<ul style="list-style-type: none"> ● ガン手術後の再発度合い等もう少し詳しく説明して欲しい ● わかりづらい説明よりもっとくだけた説明、専門用語が多すぎる。日常会話で、わかりやすく 等
終末期医療・緩和ケア	<ul style="list-style-type: none"> ● 緩和ケア病棟に入る様になるための相談もきちんと病院で相談してくれることになり安心しております 等
心のケア	<ul style="list-style-type: none"> ● ケアマネージャーの無知、暴言、心無い言葉に傷ついたが、訴える場がなかった ● 患者本人が告知されたあと、心が不安定になることをわかってほしい。医者や看護師の前では明るく説明を聞いていても高齢になると死に対する不安は、どんなに励ましても同じ苦しみに戻ってしまう ● 主人の余命宣告を受けてショックが大きく、精神面で不安定になり安定剤、眠剤をのむようになってしまった 等
情報提供・相談支援	<ul style="list-style-type: none"> ● 治験やこれから承認される新薬の情報が知りたい ● 就労者がり患した場合のサポート（生活費を含めた）の充実 ● コロナもあり、告知、治療も全て母1人で通院している。今後入院時につきそいもできないので、メールなどでコミュニケーションをとりながらはげましている 等

治療と仕事の両立	<ul style="list-style-type: none"> • 通院のために定期的に休みを取ることが負担になっている • 介護のために仕事を休んでも不利益にならないようにして • 普段、働きながらですと、時間がない。相談しようにも、また講演会に参加しようにも、その気になれない 等
医療機関の対応	<ul style="list-style-type: none"> • 医療従事者には、この先生なら信じられる、と思える言動をとっていただけると安心して治療に臨めると思う • 医療機関の間での患者の検査情報の共有等を進めてほしい • 家族がガン治療を受けているか、その対応が威圧的で、大声を荒げDVを受けているような苦しさを感ずる 等
医療従事者への感謝	<ul style="list-style-type: none"> • 抗がん剤の副作用で別の科につないでもらって助かったので、院内で各科の先生方がよく連携してくださる病院が増えると良いと思う • 病院の先生方や看護師さん、スタッフの皆様には大変お世話になっています。命を助けて下さり感謝の気持ちでいっぱいです 等
行政への意見	<ul style="list-style-type: none"> • 医療従事者は人員不足のため、実際には患者ひとりひとりに寄りそうことはできていない。医療従事者に対してもっと手厚い支援を考えて欲しい 等